

令和7年度	設計 の 理由	水道施設整備事業に伴い、本工事を要す。	工期	R8.3.10	施工 方法	条件付 一般競争 入札
起債				限り		

# 実施設計書

## 配水管布設工事 第8号

矢板市 片岡 地内

### 設計概要

施工延長	L=268.7m	
・配水管布設工 DIP(GX) φ150・φ100	L=129.6m	工務GL
・ " HPPE φ75	L=116.1m	
・ " PP φ50	L=22.9m	
・仕切弁設置工	4箇所	
・消火栓設置工	1箇所	設計者
・給水管分岐替工	1式	
・土工、路面復旧工	1式	

設計書用紙 (甲)

栃木県矢板市

請負工事価格 金

内 訳

工事価格 金

消費税相当額 金

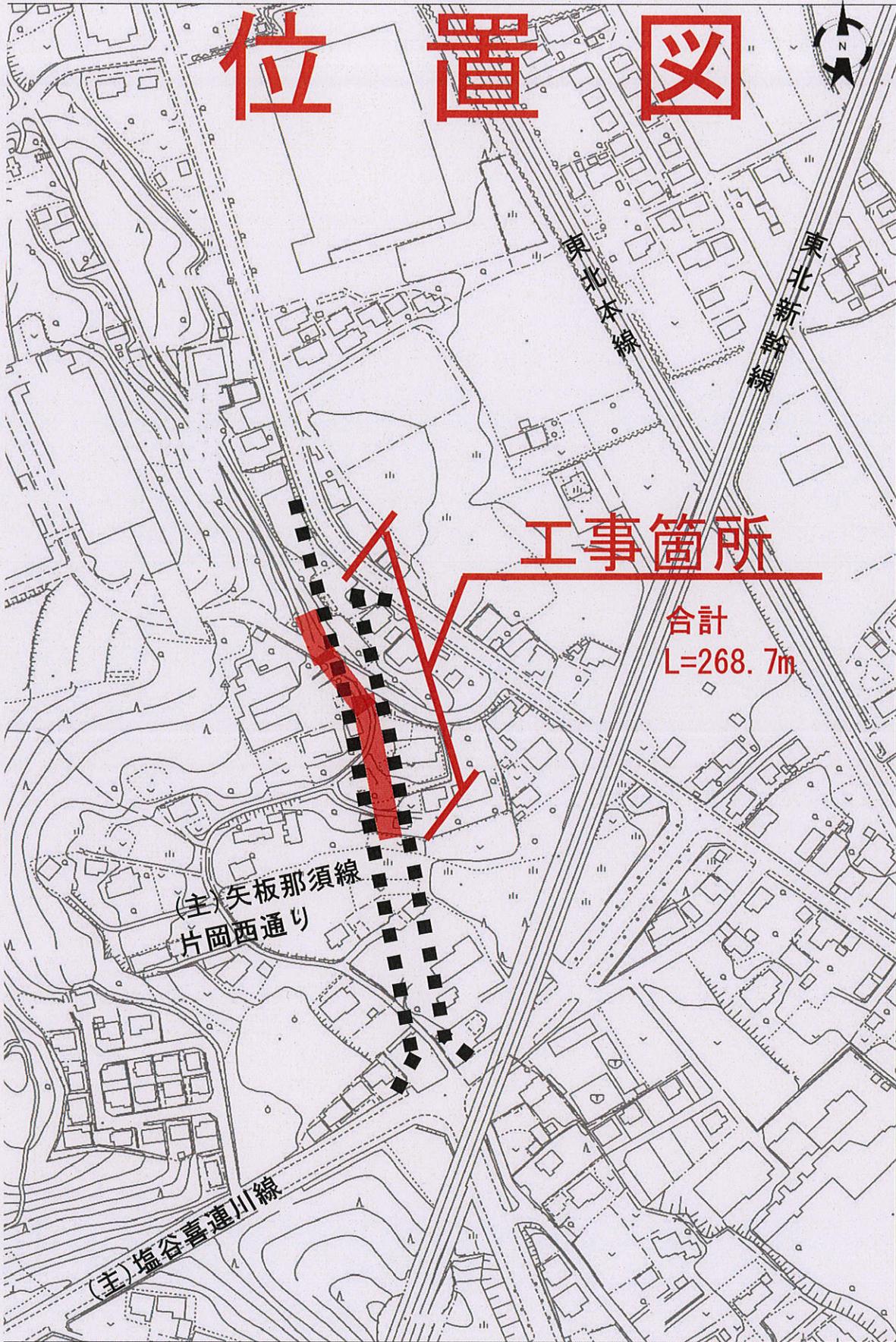
予定額		増減額	予算額	理由
査定額			に対する	
実施前回	設計額	増減額	増減額	
	請負額		前設計額	
	請負率		請負額	
今回変更	設計額	増減額	に対する	
	請負額		増減額	

# 位置図



## 工事箇所

合計  
L=268.7m



# 施 工 条 件 書

工事名：配水管布設工事第8号（片岡地内）

## ●工程関係

- ・工事着手前に施工計画書を提出し、監督員と協議すること。
- ・工事に何らかの支障があり工程が遅れる場合は、監督員と協議すること。
- ・近接工事として、(仮称)道路改良舗装工事（(主)矢板那須線片岡西通り）が予定されている為、請負業者間で工程調整を行い、監督員に報告すること。

## ●用地関係

- ・施工上、個人の土地に入らなければならない場合、土地所有者の許可を得ること。残材や砂利等はトラブルの原因になるため、取扱いに対しては特に注意すること。
- ・境界杭・測量杭等は工事車両等で動かさぬよう確実に養生すること。また施工上支障となる場合は控えをとり、確実に復旧すること。

## ●公害対策

- ・作業中の騒音、振動については、極力配慮すること。
- ・原則として、日曜、祭日の作業は避けること。ただし、工期厳守を優先するため、必要に応じて工事の推進を図ること。
- ・土砂の運搬時、路上に落ちた土砂等は必ず清掃を行うこと。（特に搬入、搬出先の路上）
- ・施工方法により、付近の家屋・工作物等に被害を及ぼす恐れがある箇所は、着工前に工損調査等を行うこと。

## ●安全対策関係

- ・歩行者、自転車等が工事区域内に侵入し、事故が発生しないよう十分注意すること。
  - ・工事車両の出入口及び建設機械の旋回には、必ず誘導員を配置すること。
  - ・交通整理員は、当初設計時では延べ22人(11日×2人)を見込んでいるが、警察協議等により施工条件の変更が生じた場合には、監督員と事前に協議の上、配置人員等は変更できるものとする。
  - ・施工の安全確保の徹底を図るため、現場において作業員全員による定期的な教育、訓練等を実施すること。（労働災害防止）
- また、月当たり半日以上の時間を割当てて、状況写真を提出すること。

## ●工事用道路関係

- ・片側通行、全面通行止め等を行い施工する場合、所轄の警察署及び矢板消防署、郵便局等

と協議の上、必要に応じて書類を提出すること。

- ・迂回路実施の場合、案内看板等を設置し、安全確保のために常に巡回すること。

#### ●仮設備関係

- ・工事表示板等保安施設については所定の位置に設置し、夜間においても遠方から確認できるようにすること。また、常に巡回を行い、安全確認を行うこと。

#### ●残土・産業廃棄物関係

- ・残土(土砂)がある場合、捨土処理報告書(写真添付)を提出すること。
- ・産業廃棄物(アスファルト塊、コンクリート塊)がある場合、径30cm未満に小割して、中間処理施設に持ち込み、受入書類等を添付して報告(写真添付)すること。
- ・ダンプトラック過積載による違法運行の防止対策実施要領を厳守すること。
- ・再生資源利用(促進)計画書及び同実施書の提出  
工事を実施するにあたり、再生資源利用(促進)計画書を施工計画書に添付すること。  
計画書の実施状況については、再生資源利用(促進)実施書を作成して、工事完了後速やかに実施書を発注者に提出すること。
- ・上記近接工事等で本施工発生土を流用する旨の協議が整った際は、請負者間において日程調整の上、発生土を引渡し、変更設計時の対象とする。

#### ●準備工

- ・監督員と協議し、必要に応じ既設配水管等埋設物の位置・土被りの確認を実施すること。  
なお当初設計時において、3箇所程度の試掘を必須とする。

#### ●工事支障物関係

- ・埋設物等の支障物件を確認した場合、監督員に連絡を取り指示を受けること。  
また埋設物等については、工事着手前に図面等により確認し、施工時には管理者の立会いを依頼すること。また、監督員と協議の上、必要に応じ試掘を行うこと。
- ・上下水道事務所 水道課 0287-44-1511
- ・ " 下水道課 0287-43-6214
- ・NTT東日本 0120-116-000
- ・東京電力カスタマーセンター 0120-995-112
- ・矢板警察署 0287-43-0110
- ・矢板消防署 0287-44-2511

#### ●その他

- ・栃木県土木工事共通仕様書及び土木工事必携を準用する。

- ・特記仕様書を遵守すること。
- ・任意の基準点等を設置した場合は、監督員の確認を得て、起工測量時の報告にも明記すること。
- ・建設業退職金共済証紙購入報告書を提出すること。
- ・着手前に設計図書と現場との照査を行い、監督員に報告すること。
- ・施工時に住民等の交通に支障を極力減らすよう、看板や回覧等で周知し、苦情の回避に努めること。

(別紙 5)

# 捨土処理報告書

令和 年 月 日

水道事業管理者  
矢板市長 様

住 所  
商号又は名称  
代表者氏名

捨土処理について、次のように処理を行いましたので、関係書類を添えて報告いたします。

## 記

1. 工 事 名

2. 工 事 場 所

3. 処 分 場 所

4. 処分地所有者名  
又は処理施設社名

5. 処 理 量

6. 付 属 書 類

写真（処理前・処理後）、位置図

(別紙 6)

# 廃材処理報告書

令和 年 月 日

水道事業管理者  
矢板市長 様

住 所  
商号又は名称  
代表者氏名

廃材処理について、次のように処理を行いましたので、関係書類を添えて報告いたします。

## 記

1. 工 事 名
2. 工 事 場 所
3. 処 分 場 所
4. 処分地所有者名  
又は処理施設社名
5. 処 理 量
6. 付 属 書 類

写真（中間処理施設看板、廃材幅管理）、位置図  
中間処理施設入荷証明

# 特記仕様書（建設副産物）

## 1 共通事項

- (1) 建設副産物実態調査要領に基づき、本工事に係る再生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書を作成し、施工計画書に含めて各1部提出すること。また、工事完成後速やかに上記計画書の実施状況について、再生資源利用実施書及び再生資源利用促進実施書を作成し、各2部提出するとともに、これらの記録を工事完成後1年間保存しておくこと。
- (2) 建設副産物の処分に先立ち、別紙「建設副産物処理承認申請書」により監督職員の確認を受け、同申請書を2部提出すること。
- (3) 建設廃棄物の処分にあって、排出事業者（元請業者）は処理業者と建設廃棄物処理委託契約書を締結し、建設副産物処理委託契約書（厚生省作成または建設八団体廃棄物対策連絡会作成様式）を監督職員に提示するとともに、同契約書の写しを提出すること。なお、収拾運搬業務を収拾運搬業者に委託する場合は、別に、収拾運搬業者と建設廃棄物処理委託契約を締結すること。
- (4) 建設副産物処理完了後速やかに別紙「建設副産物処理調書」を作成し、監督職員に2部提出するとともに、実際に要した処理等を証明する資料（受入れ伝票、写真、位置図、経路等）を提示し確認を受けること。また、竣工図書に添付すること。
- (5) 建設廃棄物については、産業廃棄物処理における「産業廃棄物管理票（マニフェスト）」のA票、B票、D票を監督職員に提示し、確認を受けるとともにE票の写しを竣工図書に添付すること。

## 2 建設発生土

- (1) 指定（A）の場合  
本工事により発生する建設発生土のうち、下記に示す建設発生土については、下記指定地に搬出すること。  
ア 搬出先（相手先工事名、場所等）：  
イ 土質及び処分量 m3  
ウ 搬出時期 適宜
- (2) 指定（B）の場合  
建設発生土（84 m3）は準指定処理とし、請負者裁量で処理地を確保するものとし、実情に応じて運搬距離を変更するものとする。

※ただし、掘削土を土質・近接現場状況により流用する可能性があるため、監督員と協議し建設発生土量・運搬距離を変更するものとする。

(3) 自由処理の場合

建設発生土 (                      m<sup>3</sup>) は自由処分とし、請負者裁量で処理地を確保するものとするが運搬距離の変更はしない。

(4) 建設発生土を処理する場合には、処理先の見やすい場所に必ず標識を掲げること。

3 建設廃棄物

本工事により発生する

ア、 アスコン塊 ( 1 m<sup>3</sup>) は、 矢板市 針生 地内、  
運搬距離 10.8km の施設に運搬し、処理するものとする。

イ、 コンクリート塊 (                      m<sup>3</sup>) は、 矢板市                      地内、  
運搬距離                      km の施設に運搬し、処理するものとする。

ウ、 建設発生木材 (                      m<sup>3</sup>) は、                      地内、  
運搬距離                      km の施設に運搬し、処理するものとする。

エ、 建設汚泥 ( 0.1 m<sup>3</sup>) は、 那須塩原市 北赤田 地内、  
運搬距離 21.8km の施設に運搬し、処理するものとする。

オ、 建設発生廃プラ (                      m<sup>3</sup>) は、                      地内、  
運搬距離                      km の施設に運搬し、処理するものとする。

カ、 石塊 (                      m<sup>3</sup>) は、                      地内、  
運搬距離                      km の施設に運搬するものとする。

# 電子納品に関する特記仕様書

## (建設工事)

### (適用範囲)

第1条 本特記仕様書は、当該工事（以下「本工事」という。）の最終成果品を電子納品の対象とし、そのために必要な事項について定めるものである。

### (電子納品)

第2条 電子納品とは、本工事の最終成果を電子データで納品することをいう。

ここでいう電子データとは、「電子納品運用ガイドライン」（以下「ガイドライン」という。）に示されたファイルフォーマットに基づいて作成されたものを指す。

なお、書面における署名又は押印の取扱いについては、別途監督職員と協議するものとする。

### (成果品の提出)

第3条 成果品の提出の際には、国土交通省チェックシステム及びウイルス対策ソフトを利用してチェックを行い、エラーが無いことを確認した後、電子媒体に格納することとする。提出物は、電子媒体（CD-R又はDVD-R）正副各1部、計2部とする。

なお、電子納品の対象外とした書類は、従来通り紙で納品する。

「ガイドライン」で特に記載のない項目については、原則として成果を電子化して提出する義務はないが、監督職員と協議の上、電子化を決定する。

また、紙による書類の提出は必要最小限とする。

### (成果品の保管)

第4条 請負者は、発注者に提出する電子媒体に格納したデータを、バックアップとして請負者のハードディスク等に保管し、その保管年数は10年間を原則とする。

### (成果品の確認)

第5条 請負者は、電子媒体（CD-R又はDVD-R）提出時において、電子データが「ガイドライン」に基づき作成されていることを、監督職員の立会いのもと確認する。

なお、電子データの検査方法については、別途協議のうえ決定する。

### (その他)

第6条 請負者は、本工事の実施にあたり内容に疑義が生じた場合には、速やかに監督職員と協議し、その指示を受けなければならない。

## 特記仕様書

1. 本工事の主任技術者は、次に掲げる資格を有する者を当てなければならない。

- (1) 建設業法（昭和24年法律第100号）による技術検定（以下「技術検定」という。）のうち検定種目を二級の建設機械施工管理又は、二級の土木施工管理とするものに合格した者、並びに建設大臣が前述の者と同等以上の能力を有するものと認定した者。
- (2) 技術士法（昭和32年法律第124号）による本試験のうち技術部門を建設部門、農業部門（選択科目「農業土木」とするものに限る。）とするものに合格した者。

なお、主任技術者等の通知書に合格証明書等有資格技術者であることを証するもの（写しでもよい）を添付すること。

# 特記仕様書

請負者は、工事の施工にあたっては次の事項を厳守するものとする。

1. 積載重量制限を超えて土砂等を積み込まず、また積み込ませないこと。
2. さし枠装着車、不表示車等に土砂等を積み込まず、また積み込ませないこと。
3. 過積載車両、さし枠車両、不表示車等から土砂等の引渡しを受ける等過積載を助長することのないようにすること。
4. 取引関係のあるダンプカー事業者が過積載を行う場合、又はさし枠装着車、不表示車等を土砂等運搬に使用している場合は、早急に不正状態を解消する措置を講ずること。
5. 建設発生土の処理及び骨材の購入等に当たって、下請け事業者及び骨材納入業者の利益を不当に害することのないようにすること。
6. 不法パーソナル無線・不法アマチュア無線等の不法・違法無線局を搭載しているトラック、ダンプカー等の工事関係車両を使用しないこと。また、下請け業者にも十分指導するものとする。
7. 以上のことにつき、下請け業者にも十分指導すること。

# 特記仕様書 配水管布設等施工管理

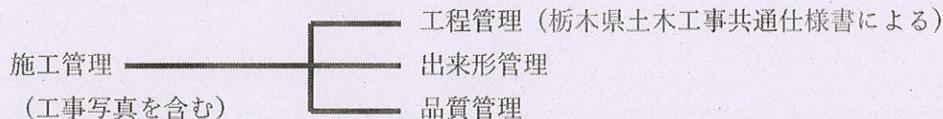
## 1 目的

この管理基準は、矢板市水道事業が発注する水道工事（配水管布設工事）の施工について、契約図書に定められた工期、工事目的物の出来形及び品質規格の確保を図ることを目的とする。

ただし、この基準に定めのない舗装工事、土木工事等における施工管理は「栃木県土木工事共通仕様書」により、またこの基準に定めのない配水管布設工事における施工管理は「水道工事標準仕様書（(公社)日本水道協会）」により、給水管布設工事における施工管理は「矢板市給水装置設計施工指針」によるものとする。

## 2 構成

施工管理の構成は、下記のとおりである。



## 3 管理の実施

- (1) 請負者は、工事施工前に、施工管理計画及び施工管理担当者を定め、当該計画書を提出する。
- (2) 施工管理担当者は、当該工事の施工内容を把握し、適切な施工管理を行う。
- (3) 請負者は、測定（試験）等を工事の施工と並行して、管理の目的が達せられるよう速やかに実施する。
- (4) 請負者は、測定（試験）等の結果をその都度逐次管理図表等に記録し、適切な管理のもとに保管し、監督員の請求に対し速やかに提示するとともに、工事完成時に提出する。
- (5) 請負者は、工事写真を施工管理の手段として、各工事の施工段階及び工事完成後明視できない箇所の施工状況、出来形寸法、品質管理状況等を写真管理基準により撮影し、適切な管理のもとに保管し、監督員の請求に対し速やかに提示するとともに、工事完成時に提出しなければならない。

## 4 規格値

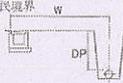
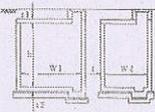
請負者は、出来形管理基準及び品質管理基準により測定した各実測（試験・検査・計測）値は、規格値を満足しなければならない。

以下に「水道工事標準仕様書（日本水道協会）」及び「栃木県土木工事共通仕様書」の一部を抜粋する。設計図書に謳われた管種・工法等必要に応じ、管理項目を追加し施工計画書に記載すること。

●水道工事標準仕様書（日本水道協会）2010年版

出来形管理基準例

単位：mm

工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
管の据付	占用位置 W	±30	・路線、口徑、管種ごとに、施工延長46mにつき1箇所			
	土被り DP	±30				
管の接合	鑄鉄管 継手	接合要領書による	・口徑、管種毎に全接合箇所測定 ・各種継手点検表に記入			
	ビニル管 継手					
	ポリ管 継手					
弁栓類・鉄蓋の据付	路面との段差	段差が無いこと	・全箇所測定			
弁室その他の構造物	弁室（現場打）	壁 厚 t	-20	・全箇所測定		
		床版厚 t <sub>1</sub>	-20			
		底版厚 t <sub>2</sub>	-20			
		内空幅 w <sub>1</sub> , w <sub>2</sub>	-30			
		内空高 h	±30			
異形管防護工	幅	-30	・全箇所測定			
	高 さ					
	辺 長					
	体 積					+であること
推進工	基 準 高	±50	・発進坑、到達坑で測定			
	中心線の偏位	左右±50	・20m毎に測定 なお、推進延長が20m以下の場合は、任意で2箇所測定。			
	管 底 高	±50	・20m毎に測定 なお、推進延長が20m以下の場合は、両端で測定			
シールド工（一次覆工）	管 底 高	±50	・50m毎に測定			
	中心線の偏位	左右±100				

上記規格値は、参考として調査事業者の代表値を記載した。  
 なお、上記以外の出来形管理基準については、国土交通省「土木工事施工管理基準及び規格値」を準拠する。

## 品質管理基準例

別途、矢板市水道工事水圧試験標準仕様書にて規格値を定める。

(一社)日本ダクタイル鉄管協会技術資料により締付けトルクを決定すること。

工種	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要
水圧試験	管路水圧試験	管内に充水し所定の水圧を負荷し、一定時間保持してこの間の圧力変化を測定	管路に漏水等異常が無く、急激な圧力降下が生じないこと	管路工事完了時	4.1.19 参照 原則として監督職員の立会い
	継手部水圧試験	試験水圧 0.5MPa 程度で5分保持してこの間の圧力変化を測定	0.4MPa 以上保持	φ900 mm程度以上の管 接合時において監督職員がこの試験を指示した場合実施	4.1.19 参照
通水準備	遊離残留塩素の測定等	4.1.32 通水準備工による	上流の水道水と遊離残留塩素が同程度	使用開始前	4.1.32 参照 必要に応じて中和剤を添加
管の接合	ダクタイル鋳鉄管継手部接合検査	目視 ノギス等による計測	・各継手部所定の寸法を満たすこと ・ボルトの締め付けトルクを満たすこと	すべての継手接合箇所について実施	4.2.3～4.2.10 参照 チェックシートを使用
管の溶接	放射線透過試験	JIS Z 3104	・きずの分類において3類以上	検査箇所数は溶接箇所数の10%とし、撮影1口につき990mm以下は1箇所、1000mm以上は2箇所	4.3.7 参照 WSP008 参照 監督職員の指示で検査箇所増可能
		JIS Z 3050 JIS Z 3106	・内面へこみは、その部分の透過写真濃度がこれに接する母材部分の透過写真濃度を超えないこと ・溶落ちは、いかなる方向に測った寸法も1個につき6mm又は管の肉厚のいずれか小さい方を超えず、試験部の有効長さ当たり最大寸法の合計長さ12mm以下とする。		
管の溶接	超音波探傷試験	JIS Z 3060	きずの分類において3類以上	検査箇所数は溶接箇所数の10%とし、撮影1口につき2箇所 検査長は30cm	4.3.7 参照 監督職員の指示で検査箇所増可能
内面塗装(無溶剤形エポキシ樹脂塗料)	外観検査	JWWA K 157	異物の混入、著しいむら、塗りもれなどがなく、均一な塗膜であること	すべての塗装箇所	4.3.4 及び 4.3.7 参照
	塗膜厚測定	JWWA K 157	0.4mm以上(プライマーを含む)	監督職員の指示した箇所	4.3.4 参照
	ピンホール	JWWA K 157	ピンホール探知器を用いて検査を行い、火花が発生するような欠陥がないこと	すべての塗装箇所	4.3.4 及び 4.3.7 参照
	付着性試験	JWWA K 157	へらを用いてはつきり、容易にはがれないこと	監督職員の指示した箇所	4.3.4 及び 4.3.7 参照

工種	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	簡 要
外面塗装 (タールエポキシ樹脂塗料)	外観検査	JWWA K 115	異物の混入、著しいむら、滲りもれなどがなく、均一な塗膜であること	すべての被覆箇所	4.3.5 及び 4.3.7 参照
	ピンホール	JWWA K 115	ピンホール探知器を用いて検査を行い、火花が発生するような欠陥がないこと	すべての被覆箇所	4.3.5 及び 4.3.7 参照
	塗膜厚測定	JWWA K 115	0.3 mm 以上	すべての被覆箇所	4.3.5 及び 4.3.7 参照
	付着性試験	JWWA K 115	へらを用いてはつり、容易にはがれないこと	監督職員の指示した箇所	4.3.5 及び 4.3.7 参照
外面塗装 (ジョイントコート)	外観検査	JWWA K 153	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 腐蝕がないこと</li> <li>・ 有害な欠陥となるめくれがないこと</li> <li>・ ジョイントコート両端から 50 mm 以内に剥れがないこと</li> <li>・ 工場塗装部との重ね長さは 50 mm 以上</li> <li>・ 耐衝撃シートについては、有害なきずがなく、テープ又は固定バンドで確実に固定されていること</li> </ul>	すべての被覆箇所	4.3.6 及び 4.3.7 参照
	ピンホール	JWWA K 153	ピンホール探知器を用いて検査を行い、火花が発生するような欠陥がないこと	すべての被覆箇所	4.3.6 及び 4.3.7 参照
	塗膜厚測定	JWWA K 153	加熱取締後のジョイントコートの厚さは、1.5 mm 以上	すべての被覆箇所	4.3.6 及び 4.3.7 参照

なお、上記以外の品質管理については、国土交通省「品質管理基準及び規格値」を準拠する。

●栃木県土木工事共通仕様書 平成 31(2019)年版、令和 4 年 4 月一部改訂

・管路土工、管布設

3 土木工事 共通仕様	2 一般 土工	3 共通 的工 種	29	3	側溝工 (砂盛工)	基準高▽	±30
						幅 $w_1, w_2$	-50
						深 さ h	-30
						延 長 L	-200

施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1箇所。 延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1施工につき 2箇所。 (なお、製品使用の場合の、製品寸法 は、現積証明書等による。)		3-2-3-20
1施工箇所		

・砂基礎

3 土木工 事共通 仕様	2 一般 土工	4 基礎 工	1	1	一般事項 (粗送砂利) (砕石基礎工) (削ぐり基礎工) (均しコンクリート)	幅 w	設計値以上
						厚さ $t_1, t_2$	-30
						延 長 L	規格値による

施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1施工箇所 につき 2箇所。		3-2-4-1
-------------------------------------------------------------------------------------	--	---------

・下層路盤工

3 土木工 事共通 仕様	2 一般 土工	5 一般 舗装工	7	1	アスファルト舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	—	—
						厚 さ	-45	-45	-15	-15
						幅	-50	-50	—	—

基準高は延長 40m毎に 1箇所の測とし、 道路中心線および側部で測定。厚 さは各車線 200m毎に 1箇所を掘り起 こして測定。幅は、延長 80m毎に 1箇 所の測に測定。ただし、幅は設計図書 の測点によらず延長 80m以下の間隔で 測定することができる。なお、厚さの 管理を下がり管理で行う場合は掘り起 こして測定しなくても良い。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を 描いた上での管理が可能な工事をい う。同一工種の施工が放り連続する場 合で、次のいずれかに該当するものを いう。 ①施工面積で 1,000㎡以上 10,000㎡ 未満 ②使用する基層及び表層用混合物の 総使用量が 600t 以上 3,000t 未満  厚さは個々の測定値が 10 個に 9 個 以上の割合で規格値を満足しなければ ならないとともに、10 個の測定値の平 均値 (X <sub>10</sub> ) について満足しなければ ならない。ただし、厚さのゲージ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適 用しない。	3-2-6-7
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------

・上層路盤工

3 土木工 事共通 仕様	2 一般 土工	6 一般 舗装工	7	3	アスファルト舗装工 (上層路盤工) 粒状調整路盤工	厚 さ	-25	-30	-8	-10
						幅	-50	-50	—	—

幅は、延長 80m毎に 1箇所の測とし、 厚さは各車線 200m毎に 1箇所を掘り 起こして測定。ただし、幅は設計図書 の測点によらず延長 80m以下の間隔で 測定することができる。なお、厚さの 管理を下がり管理で行う場合は掘り起 こして測定しなくても良い。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を 描いた上での管理が可能な工事をい う。同一工種の施工が放り連続する場 合で、次のいずれかに該当するものを いう。 ①施工面積で 1,000㎡以上 10,000㎡ 未満 ②使用する基層及び表層用混合物の 総使用量が 500t 以上 3,000t 未満  厚さは個々の測定値が 10 個に 9 個 以上の割合で規格値を満足しなければ ならないとともに、10 個の測定値の平 均値 (X <sub>10</sub> ) について満足しなければ ならない。ただし、厚さのゲージ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適 用しない。	3-2-6-7
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------

・表層工

3 土木工事 共通編 通編	2 一般 施工	6 一般 舗装工	7	11	アスファルト舗装工 (表層工)	厚さ	-7	-9	-2	-3
						幅	-25	-25	-	-
						平車性	3m <sup>2</sup> ×7.64×3- (c)2.4mm以下 直線式 (足付き) (a)1.75mm以下			

幅は、延長 80m 毎に 1 箇所を割とし、厚さは、1,000 m <sup>2</sup> に 1 箇所の割でコアーを採取して測定。ただし、幅は設計値の測点によらず延長 80m 以下の測点で測定することができる。ただし、3,000 m <sup>2</sup> 未満の場合は最低 3 個とする。また、1,000 m <sup>2</sup> 未満で異常があれば材料の納入伝票等での確認でも良い。	工事現場の考え方 中規模以上の工事とは、管理箇所を備えた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が 10,000 m <sup>2</sup> 以上あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が、3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工線の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で 1,000 m <sup>2</sup> 以上 10,000 m <sup>2</sup> 未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が 600 t 以上 3,000 t 未満 厚さは個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規程値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X <sub>10</sub> ) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 コアー採取について 横断舗装等でコアー採取により路面等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 1,000 m <sup>2</sup> 未満の舗装工事及び維持工事においては、平車性の項目を省略することが出来る。	3-2-3-7
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------

・区画線工

3 土木工事 共通編	2 一般 施工	3 共通 的工種	9	区画線工	厚さ t (溶融式のみ)	設計値以上
					幅 w	設計値以上

各線種毎に、1 箇所テストボックスにより測定。		3-2-3-9
-------------------------	--	---------

# 矢板市水道工事水圧試験標準仕様書

この仕様書は、矢板市上下水道事務所水道課発注の水道工事における水圧試験について定めたものである。他の項目については、日本水道協会発行『水道工事標準仕様書』を準拠する。

- 1 受注者は配管終了後、継手の水密性を確認するため、管路の水圧試験を行わなければならない。
- 2 試験を行う場合は、監督員と事前に日時を協議し立会いのもと実施すること。
- 3 試験方法は管内充水方式とし、布設したダクタイル鋳鉄管、水道配水用ポリエチレン管及び水道用ポリエチレン二層管を 0.75Mpa で加圧し 1 時間後の水圧が 0.6Mpa 以上保持していれば合格とする。
- 4 管内への充水は一昼夜程度かけ、管内へ侵入した空気を十分に排気することが望ましいが、管径や配管形状、地理的な条件により変動するため、監督員と協議し決定すること。
- 5 試験値が合格値を下回った場合、管路や弁栓類を点検し充水作業後、再試験を行わなければならない。
- 6 試験器の取付け位置は、配管端部に取付けた管栓及び管栓帽又は消火栓とする。
- 7 試験器は自記録式又はデータログ式とする。自記録式ではチャート紙を使用し、データログ式ではチャート紙形式でデータを出力すること。なお、自記録式のチャート紙は 1 時間用又は 4 時間用を使用すること。
- 8 成果物はチャート紙と記録写真を提出することとし、記録写真のみは不可とする。
- 9 水道配水用ポリエチレン管の試験は EF 接合後 1 時間以上経過してから行うこと。
- 10 水道配水用ポリエチレン管の試験については、予備加圧（0.75Mpa で加圧し 10 分間放置）後に試験を行うことも可とする。
- 11 管径 900 mm 以上の鋳鉄管継手ではテストバンドを使用した水圧試験とし、試験方法は日本水道協会発行『水道工事標準仕様書【土木工事編】』に記載のとおりとする。

※試験器及び接続部材は受注者が用意すること。

※試験に使用する管栓や管栓帽は発注者が貸与するが、工事が重なり、受注者の求める日時に貸与できない場合がある。この時、受注者の都合で試験を実施する場合は、受注者の負担で部材を用意すること。

# 特記仕様書

1. ダクタイル鋳鉄管耐震継手管（GX形管）を含む工事の主任技術者（監理）又は現場代理人のいずれかの者に、配水管技能者を当てなければならない。

なお、配水管技能者とは下記 表-1 の資格を有する者とする。

表-1 対象工事と資格

配置対象工事	配水管技能者の資格	登録等の区分
500mm未満のダクタイル鋳鉄管耐震継手管（GX形管）を含む工事	公益社団法人日本水道協会の配水管技能者登録	「耐震登録」又は「耐震継手」
	一般社団法人日本ダクタイル鋳鉄管協会の継手接合研修会の受講証を有する者	「耐小」（耐震管φ450以下）

※配水管工技能講習会（公益社団法人日本水道協会主催）受講修了者に交付される登録証の有効期限は発行日から5年間。有効期限を迎える登録証は更新手続きが必要。

2. 水道配水用ポリエチレン管（PEP, HPPE）を含む工事の主任技術者（監理）又は現場代理人のいずれかの者に、配水管技能者を当てなければならない。

なお、配水管技能者とは下記 表-2 の資格を有する者とする。

表-2 対象工事と資格

配置対象工事	配水管技能者の資格	登録等の区分
水道配水用ポリエチレン管を含む工事	配水用ポリエチレンパイプシステム協会の配管施工講習会（配水管用）の受講修了者又は旧団体（「水道用ポリエチレンパイプシステム研究会」「配水用ポリエチレン管協会」）の施工講習会の受講修了者。また、これと同等のメーカー（積水化学工業株、株クボタシーアイ）が実施する講習会を受講し、受講証を取得した者	

3. 配水管から分岐し、給水装置工事を施工する場合は、水道法施行規則第 36 条に基づき、給水装置工事主任技術者及び技能者を適正に配置すること。

# 工事設計書

				課長		課長補佐		主任・係長		審査者		検算		設計者	
--	--	--	--	----	--	------	--	-------	--	-----	--	----	--	-----	--

工事名称 配水管布設工事 第8号	
<u>工事費総額</u> <span style="float: right;">¥-</span>	
(内訳) 工事価格 <span style="float: right;">¥-</span>	
消費税 <span style="float: right;">¥-</span>	
発注者名 矢板市上下水道事務所水道課 工 期 工事場所 矢板市片岡地内 場所名称	共通仮設費補正： 一般交通等の影響あり② *1.2 現場管理費補正(工事場所)： 一般交通等の影響あり② *1.1 一般管理費補正(契約保証)： 金銭的保証を必要 +0.04%
工事概要 当初設計	変更設計

# 総括情報表

事務所名 設計書区分/番号 変更回数 事業名 適用単価区分 適用単価地区 単価適用日 諸経費体系  設計書名	008 矢板 (09 栃木県) 2025-08-10		
	当世代	前世代	
前払率 工事種類 工種区分 施工地域・工事場所区分 現場環境改善費補正 一般管理費補正(契約保証) 緊急工事区分による補正 豪雪補正	補正なし 水道工事(水道実務必携基準) 開削工事及び小口径推進工事等 一般交通等の影響あり②  金銭的保証を必要 補正なし		

# 本工事内訳書

費目・工種・種別・細目	数量	単位	単価	金額	備考
配水管	1	式			
配水管布設工事	1	式			
配水管布設工（資材費）DIP φ 150	1	式			
GX形直管 φ 150×5m 1種内面粉体	13	本			管:
GX形曲管 22° 1/2 φ 150	2	個			管:
K形継輪 内面粉体 φ 150	1	個			管:
K形特殊押輪 φ 150 コム輪、ホルト・ナット共	2	組			管:
接合セット φ 150 コム輪、押輪、T頭B・N共	1	組			管:
GX形G-Link φ 150 コム輪、ホルト・ナット共	1	組			管:

# 本工事内訳書

費目・工種・種別・細目	数量	単位	単価	金額	備考
GX形ラフ φ150	1	個			管:
GX形管栓(直管用) φ150 コム輪、ボルト・ナット共	1	組			管:
管明示テープ 幅30mm 長さ20m/個 年号入	125.4	m			
埋設標示シート 幅150mm ダブル	63.6	m			
配水管布設工(労務費) DIP φ150	1	式			
铸铁管吊込み据付工(機械力) 呼び径150mm バックホウ クレーン機能付2.9t吊(山積0.45/平積0.35m <sup>3</sup> )	63.6	m			代価第1号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第3節-53頁
GX形継手接合工 直管 呼び径150mm	11	口			代価第2号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第3節-58頁
GX形継手接合工 異形管 呼び径150mm	1	口			代価第3号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第3節-58頁
GX形継手接合工 異形管(G-Link) 呼び径150mm	1	口			代価第4号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第3節-58頁

# 本工事内訳書

費目・工種・種別・細目	数量	単位	単価	金額	備考
鑄鉄管切断工 呼び径150mm エンジンカッター使用 切断のみ	2	口			代価第5号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第8節-91頁
メカニカル継手工 呼び径150mm 特殊押輪使用 割増率15% 離脱防止継手等による割増を行わない 耐震型補強金具使用しない	1	口			代価第6号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第3節-54頁
メカニカル継手工 呼び径150mm 特殊押輪使用 割増率30% 離脱防止継手等による割増を行わない 耐震型補強金具使用しない	2	口			代価第7号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第3節-54頁
鑄鉄管継手取外し工(K形) 呼び径150mm	1	口			代価第8号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第10節-107頁
管明示テープ工(手間のみ) 呼び径・寸法 φ150×5000mm 天端明示無	63.6	m			代価第9号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第3節-65頁
管明示シート工(手間のみ)	63.6	m			代価第10号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第3節-66頁
通水試験工 試験距離：63.6m	63.6	m			代価第11号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第5章-第1節-129頁
配水管布設工(資材費) DIP φ100	1	式			
GX形直管 φ100×4m 1種内面粉体	18	本			管:

# 本工事内訳書

費目・工種・種別・細目	数量	単位	単価	金額	備考
GX形曲管 11° 1/4 φ 100	4	個			管:
GX形乙字管 φ 100 H450	1	個			管:
K形継輪 内面粉体 φ 100	1	個			管:
K形特殊押輪 φ 100 コム輪、ボルト・ナット共	2	組			管:
接合セット φ 100 コム輪、押輪、T頭B・N共	1	組			管:
GX形G-Link φ 100 コム輪、ボルト・ナット共	4	組			管:
GX形ライフ φ 100	4	個			管:
GX形管栓(直管用) φ 100 コム輪、ボルト・ナット共	1	組			管:
管明示テープ 幅30mm 長さ20m/個 年号入	121.5	m			

# 本工事内訳書

費目・工種・種別・細目	数量	単位	単価	金額	備考
埋設標示シート 幅150mm ダブル	66	m			
配水管布設工（労務費）DIP φ 100	1	式			
鋳鉄管吊込み据付工（機械力） 呼び径100mm ハックホ クレーン機能付2.9t吊（山積0.45/平積0.35m <sup>3</sup> ）	66	m			代価第12号 【水道事業実務必携（R6）】第一編-第2章-第3節-53頁
GX形継手接合工 直管 呼び径100mm	13	口			代価第13号 【水道事業実務必携（R6）】第一編-第2章-第3節-58頁
GX形継手接合工 異形管 呼び径100mm	1	口			代価第14号 【水道事業実務必携（R6）】第一編-第2章-第3節-58頁
GX形継手接合工 異形管（G-Link） 呼び径100mm	4	口			代価第15号 【水道事業実務必携（R6）】第一編-第2章-第3節-58頁
鋳鉄管切断工 呼び径100mm エンジンカッター使用 切断のみ	5	口			代価第16号 【水道事業実務必携（R6）】第一編-第2章-第8節-91頁
鋳鉄管継手取外し工（K形） 呼び径100mm	1	口			代価第17号 【水道事業実務必携（R6）】第一編-第2章-第10節-107頁
メカニカル継手工 呼び径100mm 特殊押輪使用 割増率30% 離脱防止継手等による割増を行わない 耐震型補強金具使用しない	2	口			代価第18号 【水道事業実務必携（R6）】第一編-第2章-第3節-54頁

# 本工事内訳書

費目・工種・種別・細目	数量	単位	単価	金額	備考
メカニカル継手工 呼び径100mm 特殊押輪使用 割増率15% 離脱防止継手等による割増を行わない 耐震型補強金具使用しない	1	口			代価第19号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第3節-54頁
管明示テープ工(手間のみ) 呼び径・寸法φ100×4000mm 天端明示無	66	m			代価第20号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第3節-65頁
管明示シート工(手間のみ)	66	m			代価第10号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第3節-66頁
通水試験工 試験距離：66.0m	66	m			代価第21号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第5章-第1節-129頁
配水管布設工(資材費) HPPEφ75	1	式			
ポリエチレン管(PEP) EF片受直管 φ75×5m	23	本			管:
EF片受曲管 90° φ75	1	個			管:
EF両受曲管 45° φ75	2	個			管:
EF両受曲管 22° 1/2 φ75	1	個			管:

# 本工事内訳書

費目・工種・種別・細目	数量	単位	単価	金額	備考
EFソケット φ75	4	個			管:
EFキャップ φ75	1	個			管:
管明示テープ 幅30mm 長さ20m/個 年号入	39.4	m			
埋設標示シート 幅150mm ダブル	116.1	m			
ロケティンクワイヤー	113.9	m			
配水管布設工 (労務費) HPPE φ75	1	式			
ホリエレン管(融着接合(EF接合))据付工 呼び径75mm	113.9	m			代価第22号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-86頁
ホリエレン管(融着接合(EF接合))継手工 呼び径75mm 2口継手	4	箇所			代価第23号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-86頁
ホリエレン管(融着接合(EF接合))継手工 呼び径75mm 1口継手	31	箇所			代価第24号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-86頁

# 本工事内訳書

費目・工種・種別・細目	数量	単位	単価	金額	備考
ホリエレン管切断工 呼び径75mm	6	口			代価第25号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第8節-97頁
既設管撤去切断工(ホリエレン管) 呼び径75mm	1	口			代価第26号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第10節-106頁
管明示テープ工(手間のみ) 75mm 天端明示無	116.1	m			代価第27号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-87頁
管明示シート工(手間のみ)	116.1	m			代価第10号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第3節-66頁
通水試験工 試験距離：116.1m	116.1	m			代価第28号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第5章-第1節-129頁
配水管布設工(資材費) PPφ50	1	式			
ホリエレン管 1種二層管 φ50	22.9	m			管:
PP用チース(同径) φ50	1	個			管:
PP用ソケット(同径) φ50	2	個			管:

# 本工事内訳書

費目・工種・種別・細目	数量	単位	単価	金額	備考
メーターエيون φ 50	2	個			管:
管明示テープ 幅30mm 長さ20m/個 年号入	5.2	m			
埋設標示シート 幅150mm ダブル	22.9	m			
ロケ-ティングワイヤ-	22.9	m			
配水管布設工 (労務費) PP φ 50	1	式			
ホ-リエレン管据付工 呼び径50mm	22.9	m			代価第29号 【水道事業実務必携 (R6)】 第一編-第2章-第6節-86頁
ホ-リエレン管継手工 呼び径50mm	9	口			代価第30号 【水道事業実務必携 (R6)】 第一編-第2章-第6節-86頁
ホ-リエレン管切断工 呼び径50mm	5	口			代価第31号 【水道事業実務必携 (R6)】 第一編-第2章-第8節-97頁
既設管撤去切断工 (ホ-リエレン管) 呼び径50mm	2	口			代価第32号 【水道事業実務必携 (R6)】 第一編-第2章-第10節-106頁

# 本工事内訳書

費目・工種・種別・細目	数量	単位	単価	金額	備考
既設ボリエチレン管(メカニカル)取外し工 呼び径50mm	1	口			ボリエチレン管(メカニカル継手)継手工×0.6
管明示テープ工(手間のみ) 50mm 天端明示無	22.9	m			代価第33号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-87頁
管明示シート工(手間のみ)	22.9	m			代価第10号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第3節-66頁
通水試験工 試験距離：22.9m	22.9	m			代価第34号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第5章-第1節-129頁
仕切弁設置工(資材費)	1	式			
PE挿口付ツトシル仕切弁 内面粉体 φ75 7.5K	2	基			管：
不断水簡易仕切弁 HPPE φ75	1	基			管：
ボール式止水栓 φ50	1	個			管：
仕切弁筐 浅埋用 φ50～φ200 座台共	3	基			

# 本工事内訳書

費目・工種・種別・細目	数量	単位	単価	金額	備考
ハット筐 座台共	1	個			
仕切弁設置工（労務費）	1	式			
鋳鉄製仕切弁（機械力）縦型設置工 呼び径100mm以下	2	基			代価第35号 【水道事業実務必携（R6）】第一編-第2章-第9節-98頁
不断水簡易仕切弁設置工 HPPE φ75	1	基			
止水栓取付け工 PP用 呼び径50mm 止水栓及び筐取付	1	箇所			代価第36号 【水道事業実務必携（R6）】第二編-第1章-第4節-193頁
ねじ式弁筐設置工 A, B形 1号 底版使用する	3	箇所			代価第37号 【水道事業実務必携（R6）】第一編-第2章-第9節-102頁
止水栓取付け工 PP用 呼び径50mm 筐のみ取付	1	箇所			代価第38号 【水道事業実務必携（R6）】第二編-第1章-第4節-193頁
消火栓設置工（資材費）	1	式			
PE挿口付鋳鉄製フランジ付T字管 φ75×75 7.5K	1	個			管：

# 本工事内訳書

費目・工種・種別・細目	数量	単位	単価	金額	備考
ボール式補修弁(レバー式) 内面粉体 φ75 L150	1	個			管:
地下式単口消火栓(浅埋用) 内面粉体 φ75×65	1	基			管:
消火栓用鉄蓋 円形 φ600 鉄蓋、受枠共	1	組			
消火栓・空気弁用ボックス 上部壁 内径600 H200	1	個			
消火栓・空気弁用ボックス 下部壁 内径600 H200	1	個			
消火栓・空気弁用ボックス 底版 内径600 H40	1	個			
フランジ接合材 φ75 布入パッキン、ステンボルト・ナット共	2	組			管:
消火栓設置工(労務費)	1	式			
地下式消火栓設置工 単口 機械施工	1	箇所			代価第39号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第9節- 101頁

# 本工事内訳書

費目・工種・種別・細目	数量	単位	単価	金額	備考
鉄蓋設置工 円形4号 内寸600mm	1	個			代価第40号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第9節-102頁
上部壁設置工 円形4号 内寸600mm 高さ200mm	1	個			代価第41号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第9節-102頁
下部壁設置工 円形4号 内寸600mm 高さ200mm	1	個			代価第42号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第9節-102頁
底版設置工 円形4号 内寸600mm 高さ40mm	1	個			代価第43号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第9節-102頁
フワンジ継手工 呼び径75(80)mm JWVA7.5K(F12)	1	口			代価第44号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第3節-56頁
給水管分岐替工(資材費)	1	式			
分水ナール PE管用 ナール式 φ75×30 フィルム共	1	個			管:
ポリエチレン管 1種二層管 φ30	10.1	m			管:
ポリエチレン管 1種二層管 φ20	57.3	m			管:

# 本工事内訳書

費目・工種・種別・細目	数量	単位	単価	金額	備考
ボール式止水栓 φ30	1	個			管:
ボール式止水栓 φ20	1	個			管:
メーターエオン φ30	5	個			管:
メーターエオン φ20	4	個			管:
PP用エルブ φ30	2	個			管:
PP用エルブ φ20	5	個			管:
PP用ソケット(異径) φ25×20	1	個			管:
PP用ソケット(同径) φ20	1	個			管:
止水栓筐(蓋枠FCD) SSDF100 100×450	2	個			

# 本工事内訳書

費目・工種・種別・細目	数量	単位	単価	金額	備考
埋設標示シート 幅150mm ダブル	44.8	m			
ロケティンクワイヤー	48.5	m			
給水管分岐替工 (労務費)	1	式			
ナール分水栓建込み工 ホリエレン管 配水管呼び径75mm 取り出し径30mm	1	箇所			代価第45号 【水道事業実務必携(R6)】第二編-第1章-第4節-192頁
ホリエレン管据付工 呼び径30mm	10.1	m			代価第46号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-86頁
ホリエレン管据付工 呼び径20mm	57.3	m			代価第47号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-86頁
ホリエレン管継手工 呼び径30mm	9	口			代価第48号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-86頁
ホリエレン管継手工 呼び径25mm	1	口			代価第49号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-86頁
ホリエレン管継手工 呼び径20mm	17	口			代価第50号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-86頁

# 本工事内訳書

費目・工種・種別・細目	数量	単位	単価	金額	備考
ポリエチレン管切断工 呼び径30mm	4	口			代価第51号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第8節-97頁
ポリエチレン管切断工 呼び径20mm	8	口			代価第52号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第8節-97頁
ポリエチレン管切断工(既設管) 呼び径30mm	1	口			代価第53号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第8節-97頁
ポリエチレン管切断工(既設管) 呼び径25mm	1	口			代価第54号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第8節-97頁
ポリエチレン管切断工(既設管) 呼び径20mm	1	口			代価第55号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第8節-97頁
止水栓取付け工 PP用 呼び径30mm 止水栓及び管取付	1	箇所			代価第56号 【水道事業実務必携(R6)】第二編-第1章-第4節-193頁
止水栓取付け工 PP用 呼び径20mm 止水栓及び管取付	1	箇所			代価第57号 【水道事業実務必携(R6)】第二編-第1章-第4節-193頁
量水器撤去工(再利用) 呼び径30mm 量水器及び管	1	箇所			量水器取付け工×0.6
量水器取付け工(ねじ込み接合) 呼び径30mm 量水器及び管取付	1	箇所			代価第58号 【水道事業実務必携(R6)】第二編-第1章-第4節-194頁 再利用

# 本工事内訳書

費目・工種・種別・細目	数量	単位	単価	金額	備考
量水器取去工（再利用） 呼び径20mm 量水器及び管	1	箇所			量水器取付け工×0.6
量水器取付け工（ねじ込み接合） 呼び径20mm 量水器及び管取付	1	箇所			代価第59号 【水道事業実務必携（R6）】第二編-第1章-第4節-194頁 再利用
管明示シート工（手間のみ）	44.8	m			代価第10号 【水道事業実務必携（R6）】第一編-第2章-第3節-66頁
土工	1	式			
土工	1	式			
土工	1	式			
舗装版切断 アスファルト舗装版, 15cm以下, -, -	58.2	m			施工第1号
舗装版直接掘削積込工（バックホ） 舗装厚0cm超え10cm以下 バックホ 山積0.28m3[平積0.2m3]	18	m2			代価第60号 【水道事業実務必携（R6）】第二編-第1章-第1節-167頁
アスファルト塊・コンクリート塊（無筋）運搬工 ダンプトラック4t積 バックホ山積0.28m3[平積0.20m3] DID区間あり 12.0km以下 天候良好	1	m3			代価第61号 【水道事業実務必携（R6）】第二編-第1章-第1節-179頁

# 本工事内訳書

費目・工種・種別・細目	数量	単位	単価	金額	備考
アスファルト廃材処理費	1	m3			処:
舗装版切断汚泥運搬費 2tトラック車片道25kmまで	0.1	m3			
舗装版切断汚泥処分費 汚泥比重 1.20~1.10	0.1	m3			処:
バックホ掘削積込工 バックホ 山積0.28m3[平積0.2m3]	115	m3			代価第62号 【水道事業実務必携(R6)】第二編-第1章-第1節-161頁
小型バックホ掘削積込工 バックホ 山積0.08m3[平積0.06m3]	1	m3			代価第63号 【水道事業実務必携(R6)】第二編-第1章-第1節-161頁
管路埋戻・締固め工(機械埋戻・バックホ) バックホ 山積0.28m3[平積0.2m3] 砂 クッション用ロス率:0.26	74	m3			代価第64号 【水道事業実務必携(R6)】第二編-第1章-第1節-164頁
管路埋戻・締固め工(機械埋戻・バックホ) バックホ 山積0.28m3[平積0.2m3] 発生土	33	m3			代価第65号 【水道事業実務必携(R6)】第二編-第1章-第1節-164頁
発生土運搬工 ダンプトラック4t積 バックホ山積0.28m3[平積0.20m3] DID区間なし 10.0km以下 天候良好	84	m3			代価第66号 【水道事業実務必携(R6)】第二編-第1章-第1節-175頁
残土受入費 砂利採取場への搬出(整地費用を含む)	84	m3			処:

# 本工事内訳書

費目・工種・種別・細目	数量	単位	単価	金額	備考
路盤工(施工幅1.8m未満) 2層仕上げ 仕上り厚35cm 再生クラッシュラン RC-40	18	m2			代価第67号 【水道事業実務必携(R6)】第二編-第1章-第1節-170頁
路盤工(施工幅1.8m未満) 1層仕上げ 仕上り厚20cm 再生クラッシュラン RC-40	0.7	m2			代価第68号 【水道事業実務必携(R6)】第二編-第1章-第1節-170頁
舗装工(人力施工) 車道及び路肩 仕上り厚5cm プライムコート 砂散布あり アスファルト混合物(エスラグ入り再生密粒度アスコン(20))	18	m2			代価第69号 【水道事業実務必携(R6)】第二編-第1章-第1節-179頁
仮設工	1	式			
仮設工	1	式			
仮設工	1	式			
交通誘導警備員B	1	式			代価第70号 【土木工事標準積算基準書(共通編)(R6)】II-5-21-1
【直接工事費計】					
共通仮設費率額	1	式			

# 本工事内訳書

費目・工種・種別・細目	数量	単位	単価	金額	備考
【 共通仮設費計 】					
【 純工事費 】					
現場管理費率額	1	式			
【 現場管理費計 】					
【 工事原価 】					
一般管理費率額	1	式			
【 一般管理費計 】					
【 工事価格 】					
【 消費税等相当額 】					

# 本工事内訳書

費目・工種・種別・細目	数量	単位	単価	金額	備考
【 工事費計 】					

鑄鉄管吊込み据付工(機械力)

呼び径150mm バックホウ クレーン機能付2.9t吊(山積0.45/平積0.35m<sup>3</sup>)

# 施工代価表

代価第1号

頁0024

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第3節-53頁

10 m 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
バックホウ運転費[標準型・クレーン機能付・排対型(1次)] 山積0.45m <sup>3</sup> [平0.35]2.9t吊		h			
【合計】	10	m			
【単位当り】	1	m			

# 施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第3節-58頁

1 口 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【合計】	1	口			
【単位当り】	1	口			

# 施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第3節-58頁

1 口 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【 合計 】	1	口			
【 単位当り 】	1	口			

# 施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第3節-58頁

1口当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【合計】	1	口			
【単位当り】	1	口			

# 施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第8節-91頁

1口当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
特殊作業員		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の30%を上限とする
【合計】	1	口			
【単位当り】	1	口			

メカニカル継手工

呼び径150mm 特殊押輪使用 割増率15% 離脱防止継手等による割増を行わない 耐震型補強金具使用しない

# 施工代価表

代価第6号

頁0029

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第3節-54頁

1口当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【合計】	1	口			
【単位当り】	1	口			

メカニカル継手工

呼び径150mm 特殊押輪使用 割増率30% 離脱防止継手等による割増を行わない 耐震型補強金具使用しない

# 施工代価表

代価第7号

頁0030

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第3節-54頁

1口当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【合計】	1	口			
【単位当り】	1	口			

# 施工代価表

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【合計】	1	口			
【単位当り】	1	口			

# 施工代価表

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
普通作業員		人			
【合計】	100	m			
【単位当り】	1	m			

# 施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第3節-66頁

100 m 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
普通作業員		人			
【合計】	100	m			
【単位当り】	1	m			

通水試験工  
試験距離：63.6m

# 施工代価表

代価第11号

頁0034

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第5章-第1節-129頁

63.6 m 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
通水試験工 給水車：不要		日			
【合計】	63.6	m			
【単位当り】	1	m			

鑄鉄管吊込み据付工(機械力)

呼び径100mm バックホウ クレーン機能付2.9t吊(山積0.45/平積0.35m<sup>3</sup>)

# 施工代価表

代価第12号

頁0035

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第3節-53頁

10 m 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
バックホウ運転費[標準型・クレーン機能付・排対型(1次)] 山積0.45m <sup>3</sup> [平0.35]2.9t吊		h			
【合計】	10	m			
【単位当り】	1	m			

# 施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第3節-58頁

1 口 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
配管工 割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【 合計 】	1	口			
【 単位当り 】	1	口			

# 施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第3節-58頁

1 口 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【合計】	1	口			
【単位当り】	1	口			

# 施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第3節-58頁

1口当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【合計】	1	口			
【単位当り】	1	口			

# 施工代価表

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
特殊作業員		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の30%を上限とする
【 合計 】	1	口			
【 単位当り 】	1	口			

鑄鉄管継手取外し工(K形)  
呼び径100mm

# 施工代価表

代価第17号

頁0040

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第10節-107頁

1口当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【合計】	1	口			
【単位当り】	1	口			

メカニカル継手工

呼び径100mm 特殊押輪使用 割増率30% 離脱防止継手等による割増を行わない 耐震型補強金具使用しない

# 施工代価表

代価第18号

頁0041

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第3節-54頁

1口当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【合計】	1	口			
【単位当り】	1	口			

メカニカル継手工

呼び径100mm 特殊押輪使用 割増率15% 離脱防止継手等による割増を行わない 耐震型補強金具使用しない

# 施工代価表

代価第19号

頁0042

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第3節-54頁

1口当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【合計】	1	口			
【単位当り】	1	口			

# 施工代価表

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
普通作業員		人			
【合計】	100	m			
【単位当り】	1	m			

通水試験工  
試験距離：66.0m

# 施工代価表

代価第21号

頁0044

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第5章-第1節-129頁

66.0 m 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
通水試験工 給水車：不要		日			
【合計】	66.0	m			
【単位当り】	1	m			

ポリエチレン管(融着接合(EF接合))据付工  
呼び径75mm

# 施工代価表

代価第22号

頁0045

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-86頁

10 m 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
【合計】	10	m			
【単位当り】	1	m			

# 施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-86頁

1 箇所 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
配管工 割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の8.5%を上限とする
【合計】	1	箇所			
【単位当り】	1	箇所			

# 施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-86頁

1 箇所 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の8.5%を上限とする
【合計】	1	箇所			
【単位当り】	1	箇所			

# 施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第8節-97頁

1口当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の7%を上限とする
【合計】	1	口			
【単位当り】	1	口			

# 施工代価表

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
普通作業員		人			
配管工 割増単価非公表の為割増無し		人			
諸雑費	1	式			労務費の7%を上限とする
【合計】	1	口			
【単位当り】	1	口			

# 施工代価表

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
普通作業員		人			
【合計】	100	m			
【単位当り】	1	m			

通水試験工  
試験距離：116.1m

# 施工代価表

代価第28号

頁0051

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第5章-第1節-129頁

116.1 m 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
通水試験工 給水車：不要		日			
【合計】	116.1	m			
【単位当り】	1	m			

# 施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-86頁

10 m 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
【合計】	10	m			
【単位当り】	1	m			

# 施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-86頁

1口当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【合計】	1	口			
【単位当り】	1	口			

# 施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第8節-97頁

1口当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
配管工 割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【合計】	1	口			
【単位当り】	1	口			

# 施工代価表

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
普通作業員		人			
配管工 割増単価非公表の為割増無し		人			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【合計】	1	口			
【単位当り】	1	口			

# 施工代価表

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
普通作業員		人			
【合計】	100	m			
【単位当り】	1	m			

通水試験工  
試験距離：22.9m

# 施工代価表

代価第34号

頁0057

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第5章-第1節-129頁

22.9 m 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
通水試験工 給水車：不要		日			
【合計】	22.9	m			
【単位当り】	1	m			

# 施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第9節-98頁

1基 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
配管工 割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
バックホ運転費[標準型・クレーン機能付・排対型(1次)] 山積0.45m3[平0.35]2.9t吊		h			
【合計】	1	基			
【単位当り】	1	基			

# 施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第二編-第1章-第4節-193頁

1 箇所 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【合計】	1	箇所			
【単位当り】	1	箇所			

# 施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第9節-102頁

1 箇所 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
普通作業員		人			
【合計】	1	箇所			
【単位当り】	1	箇所			

# 施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第二編-第1章-第4節-193頁

1 箇所 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
配管工 割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【 合計 】	1	箇所			
【 単位当り 】	1	箇所			

# 施工代価表

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
配管工 割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
トラック運転費[クレーン装置付] 4～4.5t積 2.9t吊		h			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【合計】	1	箇所			
【単位当り】	1	箇所			

鉄蓋設置工  
円形4号 内寸600mm

# 施工代価表

代価第40号

頁0063

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第9節-102頁

1 個 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
普通作業員		人			
無収縮モルタル 鉄蓋用(25kg/袋)	0.009	m3			
【合計】	1	個			
【単位当り】	1	個			

上部壁設置工  
円形4号 内寸600mm 高さ200mm

# 施工代価表

代価第41号

頁0064

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第9節-102頁

1 個 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
普通作業員		人			
【合計】	1	個			
【単位当り】	1	個			

下部壁設置工  
円形4号 内寸600mm 高さ200mm

# 施工代価表

代価第42号

頁0065

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第9節-102頁

1 個 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
普通作業員		人			
【合計】	1	個			
【単位当り】	1	個			

底版設置工  
円形4号 内寸600mm 高さ40mm

# 施工代価表

代価第43号

頁0066

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第9節-102頁

1 個 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
普通作業員		人			
【合計】	1	個			
【単位当り】	1	個			

# 施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第3節-56頁

1口当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【合計】	1	口			
【単位当り】	1	口			

サドル分水栓建込み工  
 ポリエチレン管 配水管呼び径75mm 取り出し径30mm

# 施工代価表

代価第45号

頁0068

【水道事業実務必携(R6)】第二編-第1章-第4節-192頁

1 箇所 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【合計】	1	箇所			
【単位当り】	1	箇所			

# 施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-86頁

10 m 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
【合計】	10	m			
【単位当り】	1	m			

# 施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-86頁

10 m 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
【合計】	10	m			
【単位当り】	1	m			

# 施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-86頁

1口当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【合計】	1	口			
【単位当り】	1	口			

# 施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-86頁

1口当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【合計】	1	口			
【単位当り】	1	口			

# 施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-86頁

1口当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
配管工 割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【合計】	1	口			
【単位当り】	1	口			

# 施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第8節-97頁

1口当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【合計】	1	口			
【単位当り】	1	口			

# 施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第8節-97頁

1口当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【合計】	1	口			
【単位当り】	1	口			

# 施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第8節-97頁

1口当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【合計】	1	口			
【単位当り】	1	口			

# 施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第8節-97頁

1口当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【合計】	1	口			
【単位当り】	1	口			

# 施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第8節-97頁

1口当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【合計】	1	口			
【単位当り】	1	口			

# 施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第二編-第1章-第4節-193頁

1 箇所 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【 合計 】	1	箇所			
【 単位当り 】	1	箇所			

# 施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第二編-第1章-第4節-193頁

1 箇所 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【合計】	1	箇所			
【単位当り】	1	箇所			

# 施工代価表

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【 合計 】	1	箇所			
【 単位当り 】	1	箇所			

# 施工代価表

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【 合計 】	1	箇所			
【 単位当り 】	1	箇所			

舗装版直接掘削積込工(バックホ)

舗装厚0cm超え10cm以下 バックホ 山積0.28m3[平積0.2m3]

# 施工代価表

代価第60号

頁0083

【水道事業実務必携(R6)】第二編-第1章-第1節-167頁

100 m2 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役		人			
普通作業員		人			
バックホ運転 山積0.28m3[平積0.2m3]		h			
諸雑費	1	式			端数処理
【合計】	100	m2			
【単位当り】	1	m2			

アスファルト塊・コンクリート塊(無筋)運搬工

ダンプトラック4t積 ハックホウ山積0.28m3[平積0.20m3] DID区間あり  
12.0km以下 タイヤ良好

# 施工代価表

代価第61号

頁0084

【水道事業実務必携(R6)】第二編-第1章-第1節-179頁

10 m3 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
ダンプトラック運転		日			
【合計】	10	m3			
【単位当り】	1	m3			

バックホウ掘削積込工  
 バックホウ 山積0.28m3[平積0.2m3]

# 施工代価表

代価第62号

頁0085

【水道事業実務必携(R6)】第二編-第1章-第1節-161頁

100 m3 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役		人			
普通作業員		人			
バックホウ運転 山積0.28m3[平積0.2m3]		h			
諸雑費	1	式			端数処理
【合計】	100	m3			
【単位当り】	1	m3			

小型バックホウ掘削積込工  
 バックホウ 山積0.08m<sup>3</sup>[平積0.06m<sup>3</sup>]

# 施工代価表

代価第63号

頁0086

【水道事業実務必携(R6)】第二編-第1章-第1節-161頁

100 m<sup>3</sup> 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役		人			
普通作業員		人			
小型バックホウ運転 山積0.08m <sup>3</sup> [平積0.06m <sup>3</sup> ]		日			
諸雑費	1	式			端数処理
【合計】	100	m <sup>3</sup>			
【単位当り】	1	m <sup>3</sup>			

# 施工代価表

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役		人			埋め戻し
普通作業員		人			埋め戻し
普通作業員		人			クンパ 締固め
バックホ運転 山積0.28m3[平積0.2m3]		h			投入
クンパ 運転		日			クンパ 締固め
砂 クッション用	126	m3			ロス率0.26
諸雑費	1	式			端数処理
【 合計 】	100	m3			
【 単位当り 】	1	m3			

# 施工代価表

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役		人			埋め戻し
普通作業員		人			埋め戻し
普通作業員		人			クハ 締固め
バックホ運転 山積0.28m3[平積0.2m3]		h			投入
クハ 運転		日			クハ 締固め
諸雑費	1	式			端数処理
【 合計 】	100	m3			
【 単位当り 】	1	m3			

発生土運搬工  
 ダンプトラック4t積 バックホウ山積0.28m3[平積0.20m3] DID区間なし  
 10.0km以下 タイヤ良好

# 施工代価表

代価第66号

頁0089

【水道事業実務必携(R6)】第二編-第1章-第1節-175頁

10 m3 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
ダンプトラック運転		日			
【合計】	10	m3			
【単位当り】	1	m3			

# 施工代価表

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
普通作業員		人			
再生クランチャーラン RC-40	44.45	m3			100*(35/100)*(1+0.27)
クランパ° 運転		日			
諸雑費	1	式			端数処理
【合計】	100	m2			
【単位当り】	1	m2			

路盤工(施工幅1.8m未満)  
1層仕上げ 仕上り厚20cm 再生クランチャーラン RC-40

# 施工代価表

代価第68号

頁0091

【水道事業実務必携(R6)】第二編-第1章-第1節-170頁

100 m2 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
普通作業員		人			
再生クランチャーラン RC-40	25.4	m3			100*(20/100)*(1+0.27)
クランパ° 運転		日			
諸雑費	1	式			端数処理
【合計】	100	m2			
【単位当り】	1	m2			

舗装工(人力施工)

車道及び路肩 仕上り厚5cm プライムコート 砂散布あり アスファルト混合物(エコラ  
グ入り再生密粒度アスコ(20))

# 施工代価表

代価第69号

頁0092

【水道事業実務必携(R6)】第二編-第1章-第1節-179頁

100 m2 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役		人			
特殊作業員		人			
普通作業員		人			
アスファルト混合物 エコラグ入り再生密粒度アスコ(20)	12.573	t			100*(5/100)*2.35*(1+0.07)
アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	126	L			
振動ロー運転		日			
振動コンパクタ運転		日			
砂散布費	1	式			(労+機)の3%
諸雑費	1	式			(労+機)の17%を上限とする

水道課



# 施工代価表

【土木工事標準積算基準書(共通編)(R6)】Ⅱ-5-21-1

1 式 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
交通誘導警備員B		人			
【合計】	1	式			
【単位当り】	1	式			

# 施工パッケージ

積算単位：m

区分	代表機労材規格	構成比	単価	補正式	備考
K	機械	6.05			
東京					
K1	コンクリートカッタ[ハキューム式・湿式] 切削深20cm級プレート径φ56cm	4.09			令和6年度版建設機械等損料表11-9
東京					
R	労務	55.5			
東京					
R1	特殊作業員	19.28			
東京					
R2	土木一般世話役	9.9			
東京					
R3	普通作業員	8.33			
東京					
Z	材料	38.45			
東京					
Z1	プレート(コンクリートカッタ) 径22インチ	35.21			
東京					
Z2	ガソリンレギュレータースタンド	2.19			
東京					



## 公表単価一覧表

工事名：配水管布設工事 第8号

名称	規格	単位	単価：円	適用区分			備考
				機	労	材	
管明示テープ	幅30mm 長さ20m/個 年号入	m	110			○	
ロケーティングワイヤー	100m=1巻	m	350			○	
既設ポリエチレン管 (メカニカル)取外し	φ50	口	1,250		○		
不断水簡易仕切弁	HPPE用 φ75	基	325,000			○	
ボール式止水栓	φ50	個	64,200			○	
仕切弁筐	浅埋用、φ50～φ200 座台共	個	105,000			○	
ハット筐	座台共	個	40,200			○	
不断水簡易仕切弁 設置費	HPPE用 φ75、昼間施工	箇所	256,000	○	○		
PE挿口付鑄鉄製フ ランジ付T字管	φ75×75 7.5K	個	67,300			○	
地下式単口消火栓 (浅埋用)	内面粉体 φ75×65	基	106,000			○	
消火栓用鉄蓋	円形 φ600 鉄蓋、受枠共	組	138,000			○	
消火栓・空気弁用 ボックス	上部壁 内径600 H200	個	53,000			○	
消火栓・空気弁用 ボックス	下部壁 内径600 H200	個	29,000			○	
消火栓・空気弁用 ボックス	底版 内径600 H40	個	32,000			○	
フランジ接合材	φ75 布入パッキン、ステンボルト・ナット共	組	7,120			○	
分水サドル	PE管用 サドル式 φ75×30 フィルム共	個	53,800			○	
ボール式止水栓	φ30	個	31,900			○	
ボール式止水栓	φ20	個	10,600			○	
止水栓筐(蓋枠FCD)	SSDF100 100×450	個	10,000			○	
量水器撤去工(再利用)	φ30 量水器、筐	箇所	6,060		○		
量水器撤去工(再利用)	φ20 量水器、筐	箇所	3,680		○		

(備考)

- 1 本表に記載されている単価は、見積り及び特別調査により決定したものである。
- 2 適用区分に○印があるものは、下記の価格を示す。  
「機」: 機械器具等の損料または賃料  
「労」: 労務費  
「材」: 材料費

番号	設計の理由	工期	施工法
<h1>設計書</h1>			
<h2>配水管布設工事 第8号 (第1工区)</h2>			
栃木県 矢板市 片岡 地内			
工事延長 L = 268.67 m			
<h3>設計概要</h3>			
<h3>工事概要</h3>			
1. DIP (GX)	φ 150m/m	L = 63.62	m
2. DIP (GX)	φ 100m/m	L = 65.99	m
3. HPPE	φ 75m/m	L = 116.12	m
4. PP	φ 50m/m	L = 22.94	m
5. 仕切弁設置工	φ 75m/m	2	箇所
	不断水簡易仕切弁 φ 75m/m	1	箇所
	φ 50m/m (止水栓)	1	箇所
6. 消火栓設置工	φ 75×65	1	箇所
7. 給水管分岐替工		1	式

工種	名 称	形 状 寸 法	単 位	当 初			変 更			備 考
				数 量	単 価	金 額	数 量	単 価	金 額	
	1. DIP(GX)φ150m/m L=63.62m									
	1). 材 料 費									
	G X 形 直 管	S種内面粉体 φ 150 X 5.00	本	11						
	G X 形 直 管	S種内面粉体 切用管 φ 150 X 5.00	本	2						
	G X 形 曲 管	G X形 φ 150 X 22 1/2°	個	2						
	K 形 継 輪	K形 φ 150	個	1						
	特 殊 押 輪	K形 φ 150	個	2						
	接 合 セ ヅ ト	G X形コ <sup>△</sup> 輪、押輪・T 頭B・N共 異形管 φ 150	個	1						
	G X 形 G-Link	G X形コ <sup>△</sup> 輪、ボルト・ナット φ 150 共	個	1						
	G X 形 ラ イ ナ	G X形 φ 150	個	1						
	G X 形 栓	G X形 φ 150	個	1						
	管 明 示 テ ー プ	幅30mm 長さ20m/個 年号入	m	125.4						
	埋 設 標 示 シ ー ト	幅150mm ダブル	m	63.6						
	小 計									

工種	名稱	形状寸法	單位	當 初			變 更			備 考
				數量	單 價	金 額	數 量	單 價	金 額	
	2). 勞 務 費									
	鑄 鉄 管 布 設 工	吊り込み据付け(機械力) φ 150	m	63.6						総延長 — 仕切弁 63.62 —
	鑄 鉄 管 接 合 工	GX形 (直管) φ 150	口	11						
	鑄 鉄 管 接 合 工	GX形 (異径管) φ 150 ✓	口	1						
	鑄 鉄 管 接 合 工	GX継手G-Link(60%割増) φ 150	口	1						
	鑄 鉄 管 切 断 工	GX形 φ 150	口	2						新設 2
	メカニカル継手工	GX形 栓 φ 150	口	1						
	メカニカル継手工	K形 特殊押輪 φ 150 (30%割増)	口	2						継輪
	既設鑄鉄管継手取外し工	K形 管栓帽 φ 150	口	1						
	管 明 示 プ ラ ー プ 工		m	63.6						
	埋 設 標 示 シ ー ト 工		m	63.6						
	通 水 試 験 工	φ 800以下 (既設管連絡充水)	m	63.6						
	小 計									
	計									

工種	名 称	形 状 寸 法	単 位	当 初			変 更			備 考
				数 量	単 価	金 額	数 量	単 価	金 額	
	2. DIP(GX)φ100m/m L=65.99m									
	1). 材 料 費									
	G X 形 直 管	S種内面粉体 φ 100 × 4.00	本	13						
	G X 形 直 管	S種内面粉体 切用管 φ 100 × 4.00	本	5						
	G X 形 曲 管	G X形 φ 100 × 11 1/4°	個	4						
	G X 形 乙 字 管	G X形 φ 100 × H=450	個	1						
	K 形 繼 輪	K形 φ 100	個	1						
	特 殊 押 輪	K形 φ 100	個	2						
	接 合 セ ッ ト	G X形 <sup>コ</sup> 輪、押輪・T 頭B・N共 異形管 φ 100	個	1						
	G X 形 G-Link	G X形 φ 100	個	4						
	G X 形 ラ イ ナ	G X形 φ 100	個	4						
	G X 形 栓	G X形 φ 100	個	1						
	管 明 示 テ ー プ	幅30mm 長さ20m/個 年号入	m	121.5						
	埋 設 標 示 シ ー ト	幅150mm ダブル	m	66.0						
	小 計									

工種	名称	形状寸法	単位	当初			変更			備考
				数量	単価	金額	数量	単価	金額	
	2). 労務費									
	鑄鉄管布設工	吊り込み据付け(機械力) φ 100	m	66.0						総延長 - 仕切弁 65.99 -
	鑄鉄管接合工	GX形(直管) φ 100	口	13						
	鑄鉄管接合工	GX形(異径管) φ 100 ✓	口	1 ✓						
	鑄鉄管接合工	GX継手G-Link(60%割増) φ 100	口	4						
	鑄鉄管切断工	GX形 φ 100	口	5						新設 5
	既設鑄鉄管継手取外し工	K形 φ 100 管栓帽	口	1						
	メカニカル継手工	K形 φ 100 特殊押輪 (30%割増)	口	2						継輪
	メカニカル継手工	GX形 / 栓 φ 100	口	1 ✓						
	管明示テープ工		m	66.0						
	埋設標示シート工		m	66.0						
	通水試験工	φ 800以下 (既設管連絡充水)	m	66.0						
	小計									
	計									

工種	名称	形状寸法	単位	当初			変更			備考
				数量	単価	金額	数量	単価	金額	
	3. HPPEφ75m/m L=116.12m									
	1). 材料費									
	ポリエチレン管(PEP)	EF片受直管 φ 75 × 5.00	本	21						
	ポリエチレン管(PEP)	EF片受切管 φ 75 × 5.00	本	2						
	E F 片受曲管 90°	HPPE φ 75 × 90°	個	1						
	E F 両受曲管 45°	HPPE φ 75 × 45°	個	2						
	E F 両受曲管 22 1/2°	HPPE φ 75 × 22 1/2°	個	1						
	E F ソケット	HPPE φ 75	個	4						
	E F キヤップ	HPPE φ 75	個	1						
	管明示テープ	幅30mm 長さ20m/個 年号入	m	39.4						
	埋設標示シート	幅150mm ダブル	m	116.1						
	ロケータイングワイヤー		m	113.9						
	小計									

工種	名称	形状寸法	単位	当初			変更			備考
				数量	単価	金額	数量	単価	金額	
	2). 労務費									
	ホ°ポリエチレン管(融着接合)据付工	人力 φ 75	m	113.9						総延長 - 仕切弁 116.12 - 2.27
	ホ°ポリエチレン管継手工(融着接合)	HPPE φ 75 (2口)	箇所	4						リフト
	ホ°ポリエチレン管継手工(融着接合)	HPPE φ 75 (1口)	口	31						直管、曲管、キップ 新設 6
	ホ°ポリエチレン管切断工	HPPE φ 75	口	6						
	既設ホ°ポリエチレン管切断工	HPPE φ 75	口	1						
	管明示テープ工	胴巻きのみ	m	116.1						
	埋設標示シート工	幅15cm φ 800以下	m	116.1						
	通水試験工	(既設管連絡充水)	m	116.1						
	小計									
	計									



工種	名称	形状寸法	単位	当初			変更			備考
				数量	単価	金額	数量	単価	金額	
	2). 労務費									
	ホ°リエチレン管据付工	人力 φ 50	m	22.9						総延長 - 仕切弁 116.12 - 2.27
	ホ°リエチレン管継手工	PP用 φ 50 (1口当り)	口	9						ソケット(2口), フーズ(同径) (3口) メーターユニオン(1口)
	ホ°リエチレン管切断工	PP用 φ 50	口	5						新設 5
	既設ホ°リエチレン管切断工	PP用 φ 50	口	2						既設 2
	既設ホ°リエチレン管取外し 工 (メカニカル)	PP用 エンドキャップ φ 50	口	1						
	管明示テープ工	胴巻きのみ	m	22.9						
	埋設標示シート工	幅15cm	m	22.9						
	通水試験工	φ 800以下 (既設管連絡充水)	m	22.9						
	小計									
	計									

工種	名 称	形 状 寸 法	单 位	当 初		変 更		備 考
				数 量	单 価	数 量	单 価	
5.	仕切弁設置工	仕切弁 φ75m/m 2基、不断水簡易仕切弁 φ75m/m 1基、止水栓 φ50m/m 1基						
	1). 材 料 費							
	PE挿し口付 片受ソフトシール仕切弁	HPPE φ 75	基	2				
	不断水簡易仕切弁	HPPE用 φ 75	基	1				
	ボール式止水栓	PP用 φ 50	基	1				
	仕 切 弁 筐	φ50~200 座台共 仕切弁筐	個	3				
	ハ ツ ト 筐	φ 50 座台共	個	1				
	小計							



工種	名 称	形 状 寸 法	単 位	当 初			変 更			備 考
				数 量	単 価	金 額	数 量	単 価	金 額	
	6. 消火栓設置工 地下式単口消火栓φ75×65 1基									
	1). 材 料 費									
	PE挿し口付鋳鉄製 フランジ付T字管	75×KV <sup>1</sup> 付 φ 75 × 75	個	1						
	ボー ル 式 補 修 弁	内面粉体 φ 75 × L150	個	1						
	排 気 弁 付 地下式単口消火栓	内面粉体 φ 75 × 65	基	1						
	鉄 蓋	消火栓用鉄蓋 円形φ600 鉄蓋、受枠共	組	1						
	消火栓・空気弁用 ボ ッ ク ス	上部壁 内径600 H200	個	1						
	消火栓・空気弁用 ボ ッ ク ス	下部壁 内径600 H200	個	1						
	消火栓・空気弁用 ボ ッ ク ス	底版 内径600 H40	個	1						
	フランシ、接合材	布入パッキ、スワルス φ 75 ホール・ナット共	組	2						
	小 計									

工種	名 称	形 状 寸 法	単 位	当 初			変 更			備 考
				数 量	単 価	金 額	数 量	単 価	金 額	
	2). 労 務 費									
	消 火 栓 設 置 工	単口用 排気弁付 φ 75 × 65	箇所	1						補修弁取付含む
	消 火 栓 鉄 蓋 設 置 工	円形 鉄蓋、受枠共 φ 600	個	1						
	消 火 栓 ボ ッ ク ス 設 置 工	円形4号 ビンコンクリート製ホックス φ 600 上部壁 高さ200mm	個	1						
	消 火 栓 ボ ッ ク ス 設 置 工	円形4号 ビンコンクリート製ホックス φ 600 下部壁 高さ200mm	個	1						
	消 火 栓 ボ ッ ク ス 設 置 工	円形4号 ビンコンクリート製分割底版型ホックス φ 600 底版 高さ40mm	個	1						
	フ ラ ン ジ 継 手 工	φ 75	口	1						
	小 計									

工種	名称	形状寸法	単位	当初			変更			備考
				数量	単価	金額	数量	単価	金額	
7.	給水管分岐替工 1式									
	1). 材料費									
	分水分岐用 PE管用 ファイバ共	HPPE用 φ75×30 ファイバ共	個	1						
	ポリエチレン管	1種二層管 φ30	m	10.1						
	ポリエチレン管	1種二層管 φ20	m	57.3						
	ボール式止水栓	φ30	個	1						
	ボール式止水栓	φ20	個	1						
	メーターユニオン	φ30	個	5						
	メーターユニオン	φ20	個	4						
	PP用エルボ	φ30	個	2						
	PP用エルボ	φ20	個	5						
	PP用ソケット(異径)	φ25×20	個	1						
	PP用ソケット(同径)	φ20	個	1						
	止水栓 筐	φ30用 蓋枠FCD / φ100×H450 SSDF100	個	1						
	止水栓 筐	φ20用 蓋枠FCD / φ100×H450 SSDF100	個	1						



工種	名称	形状寸法	単位	当初			変更			備考
				数量	単価	金額	数量	単価	金額	
	2). 労務費									
	サドル分水栓取付工	配水管呼び径 75mm 分水呼び径 30mm HPPE用	箇所	1						
	ポリエチレン管布設工	呼び径 30mm	m	10.1						
	ポリエチレン管布設工	呼び径 20mm	m	57.3						
	ポリエチレン管継手工	呼び径 30mm (1口当り) 融着接合行わない(50mm以下)	口	9						
	ポリエチレン管継手工	呼び径 25mm (1口当り) 融着接合行わない(50mm以下)	口	1						
	ポリエチレン管継手工	呼び径 20mm / (1口当り) 融着接合行わない(50mm以下)	口	17						
	ポリエチレン管切断工	呼び径 30mm	口	4						
	ポリエチレン管切断工	呼び径 20mm	口	8						
	既設ポリエチレン管切断工	呼び径 30mm	口	1						
	既設ポリエチレン管切断工	呼び径 25mm	口	1						
	既設ポリエチレン管切断工	呼び径 20mm	口	1						
	止水栓取付工	呼び径 30mm	箇所	1						
	止水栓取付工	呼び径 20mm	箇所	1						







# 数 量 計 算 書

工事名 配水管布設工事 第 8 号(第 1 工区)

工事場所 矢板市 片岡 地内

令和 7 年 8 月

# 1. DIP (GX) $\phi$ 150mm 布設工 数量計算書

DIP (GX) 布設工  $\phi$  150mm L=63.62m (水平距離 l =63.59m)

L1-1 L=63.62m (水平距離 l =63.59m)





切管調書 L1

DIP φ 150

定尺長= 5.00 m

本数	甲切管 (m)	乙切管(m)					有効長 (m)	残管長 (m)	挿口加工	切断工・ 溝切工	切断工 のみ	溝切工 のみ
		1	2	3	4	5						
1	①-1 GX G 2.96						2.96	2.04			1	
2	②-1 GX K 4.80						4.80	0.20			1	
小計							7.76	2.24			2	

切管調書

DIP (K) φ 150 (3種管)

定尺長= 5.00 m

本数	甲切管 (m)	乙切管(m)					有効長 (m)	残管長 (m)	挿口加工	切断工・ 溝切工	切断工 のみ	溝切工 のみ
		1	2	3	4	5						
小計												

切管調書

DIP (K) φ 150 (1種管)

定尺長= 5.00 m

本数	甲切管 (m)	乙切管(m)					有効長 (m)	残管長 (m)	挿口加工	切断工・ 溝切工	切断工 のみ	溝切工 のみ
		1	2	3	4	5						
小計												
合計							7.76	2.24			2	

- 切管用定尺管本数 (GX形) 2 本
- 切管用定尺管本数 (K形) 本
- GX継手挿口加工 (φ 150) 口
- 铸铁管切断・溝切加工 (φ 150) 口
- 铸铁管切断工 (φ 500) 2 口
- 铸铁管溝切加工 (φ 150) 口

名 称	計 算 式	数 量
( 明 示 テ ー プ )		
直 管	GX 形 φ 150 mm 13 本 × 9.38 m = 121.94	121.94 m
曲 管 45°	GX 形 φ 150 mm 個 × 1.79 m =	m
兩受曲管 45°	GX 形 φ 150 mm 個 × 0.79 m =	m
曲 管 22 <sup>1/2</sup> °	GX 形 φ 150 mm 2 個 × 1.73 m = 3.46	3.46 m
兩受曲管 22 <sup>1/2</sup> °	GX 形 φ 150 mm 個 × 0.79 m =	m
曲 管 11 <sup>1/4</sup> °	GX 形 φ 150 mm 個 × 1.69 m =	m
曲 管 5 <sup>5/8</sup> °	GX 形 φ 150 mm 個 × 1.69 m =	m
二 受 T 字 管	GX 形 φ × mm 個 × m =	m
	GX 形 φ × mm 個 × m =	m
片 落 管	GX 形 φ 100 × 75 mm 個 × 1.65 m =	m
	GX 形 φ × mm 個 × m =	m
計		125.40 m

## 2. DIP (GX) $\phi$ 100mm 布設工 数量計算書

DIP (GX) 布設工  $\phi$  100mm L=65.99m (水平距離 l=65.70m)

L2-1 L=65.99m (水平距離 l=65.70m)





切管調書 L2-1

DIP φ 100

定尺長= 4.00 m

本数	甲切管 (m)	乙切管(m)					有効長 (m)	残管長 (m)	挿口加工	切断工・ 溝切工	切断工 のみ	溝切工 のみ
		1	2	3	4	5						
1	①-1 GX G 2.40						2.40	1.60			1	
2	②-1 GX G 0.97						0.97	3.03			1	
3	③-1 GX G 1.30						1.30	2.70			1	
4	④-1 GX K 3.05						3.05	0.95			1	
5	⑤-1 GX K 3.67						3.67	0.33			1	
小計							11.39	8.61			5	

切管調書

DIP (K) φ 100 (3種管)

定尺長= 4.00 m

本数	甲切管 (m)	乙切管(m)					有効長 (m)	残管長 (m)	挿口加工	切断工・ 溝切工	切断工 のみ	溝切工 のみ
		1	2	3	4	5						
小計												

切管調書

DIP (K) φ 100 (1種管)

定尺長= 4.00 m

本数	甲切管 (m)	乙切管(m)					有効長 (m)	残管長 (m)	挿口加工	切断工・ 溝切工	切断工 のみ	溝切工 のみ
		1	2	3	4	5						
小計												
合計							11.39	8.61			5	

切管用定尺管本数 (GX形) 5 本  
 切管用定尺管本数 (K形) 本  
 GX継手挿口加工 (φ 150) 口  
 鑄鉄管切断・溝切加工 (φ 150) 口  
 鑄鉄管切断工 (φ 500) 5 口  
 鑄鉄管溝切加工 (φ 150) 口

名 称	計 算 式				数 量
( 明 示 テ ー プ )					
直 管	GX 形 φ 100 mm	18 本	× 6.38 m	= 114.84	114.84 m
曲 管 45°	GX 形 φ 100 mm	個	× 1.26 m	=	m
両受曲管 45°	GX 形 φ 100 mm	個	× 0.55 m	=	m
曲 管 22 <sup>1/2</sup> °	GX 形 φ 100 mm	個	× 1.22 m	=	m
両受曲管 22 <sup>1/2</sup> °	GX 形 φ 100 mm	個	× 0.55 m	=	m
曲 管 11 <sup>1/4</sup> °	GX 形 φ 100 mm	4 個	× 1.20 m	= 4.80	4.80 m
曲 管 5 <sup>5/8</sup> °	GX 形 φ 100 mm	個	× 1.20 m	=	m
二 受 T 字 管	GX 形 φ 100 × mm	個	× m	=	m
	GX 形 φ 100 × mm	個	× m	=	m
片 落 管	GX 形 φ 100 × mm	個	× m	=	m
	GX 形 φ × mm	個	× m	=	m
乙 字 管 450	GX 形 φ 100 mm	1 個	× 1.88 m	= 1.88	1.88 m
計					121.52 m

### 3. HPPE $\phi$ 75mm 布設工 数量計算書

HPPE 布設工  $\phi$  75mm L=116.12m (水平距離 l=116.00m)

L5 L=116.12m (水平距離 l=116.00m)



# 切管延長調書

HPPE φ 75 mm (l= 5.00 m/本)						
No.	甲切管	乙切管		延長	残管延長	切断口数
	EF片受直管					
1	2.00	1.00	0.48	3.48	1.52	3
2	2.00	0.62	1.17	3.79	1.21	3
小計	m 4.00	m 3.27		m 7.27	m 2.73	口 6
	ブレンエンド直管					
小計	m	m		m	m	口
合計	m 4.00	m 3.27		m 7.27	m 2.73	口 6



## 4. PP $\phi$ 50mm 布設工 数量計算書

PP 布設工  $\phi$  50mm L=22.94m (水平距離 l=22.83m)

L6 L=22.94m (水平距離 l=22.83m)



# 切管延長調書

PPφ 50 mm (1 = 40.00 m/本)								
No.	切管					延長	残管延長	切断口数
1	0.30	1.00	2.06	3.74	15.84	22.94	17.06	5
小計						m 22.94	m 17.06	口 5
小計					m	m	m	口
合計					m	m 22.94	m 17.06	口 5



## 5. 仕切弁設置工 数量計算書

1) 仕切弁設置工  $\phi$  75mm 2箇所

2) 不断水簡易仕切弁設置工  $\phi$  75mm 1箇所

3) 止水栓設置工  $\phi$  50mm 1箇所





## 6. 消火栓設置工 数量計算書

1) 消火栓設置工  $\phi 75 \times 65\text{mm}$  1箇所





## 7. 給水管分岐替工 数量計算書



# 給水労務集計表

	管布設工			PP管切断工						PP管切断工 (既設管)						分水栓建込工(HPPB) φ75×					分水栓建込工(PB管用) φ100×					分水栓建込工(PP用) φ50×					分岐管 設置工				
	13	20	25	13	20	25	30	40	50	13	20	25	30	40	50	20	25	30	40	50	20	25	30	40	50	20	25	30	40	50	延長				
1 A																																			
		57.28			8						1	1																			L= 40.10				
				ポリプロピレン管継手工 (1口当り)						止水栓取付工						量水器管取付工					塩ビ管切断工					塩ビ管継手工 (1口当り)									
	30	40	50	13	20	25	30	40	50	13	20	25	30	40	50	20	25	30	40	50	20	25	30	40	50	20	25	30	40	50					
			DS	MU+DS+L	DS															1					1										
2 B																																			
							4						1							1											L= 8.40				
				ポリプロピレン管継手工 (1口当り)						止水栓取付工						量水器管取付工					塩ビ管切断工					塩ビ管継手工 (1口当り)									
	30	40	50	13	20	25	30	40	50	13	20	25	30	40	50	20	25	30	40	50	20	25	30	40	50	20	25	30	40	50					
	10.05					MU+L							1						1																
3																																			
																															L=				
				ポリプロピレン管継手工 (1口当り)						止水栓取付工						量水器管取付工					塩ビ管切断工					塩ビ管継手工 (1口当り)									
	30	40	50	13	20	25	30	40	50	13	20	25	30	40	50	20	25	30	40	50	20	25	30	40	50	20	25	30	40	50					
4																																			
																															L=				
				ポリプロピレン管継手工 (1口当り)						止水栓取付工						量水器管取付工					塩ビ管切断工					塩ビ管継手工 (1口当り)									
	30	40	50	13	20	25	30	40	50	13	20	25	30	40	50	20	25	30	40	50	20	25	30	40	50	20	25	30	40	50					
5																																			
																															L=				
				ポリプロピレン管継手工 (1口当り)						止水栓取付工						量水器管取付工					塩ビ管切断工					塩ビ管継手工 (1口当り)									
	30	40	50	13	20	25	30	40	50	13	20	25	30	40	50	20	25	30	40	50	20	25	30	40	50	20	25	30	40	50					
合計																																			
		57.28			8		4				1	1	1							1											L= 48.50				
				ポリプロピレン管継手工 (1口当り)						止水栓取付工						量水器管取付工					塩ビ管切断工					塩ビ管継手工 (1口当り)					継設工				
	30	40	50	13	20	25	30	40	50	13	20	25	30	40	50	20	25	30	40	50	20	25	30	40	50	20	25	30	40	50					
	10.05																			1					1										
				17	1	9				1	1				1				1											L= 44.81					

※ ソケット: S エルブ: L 45°エルブ: 45L 径違いソケット: DS PP-VPソケット: PVS チーズ: T  
 メーターユニオン: MU 伸縮可撓離脱防止継手 (SKX等): SKX

給水分岐替工 集計表

名 称	①市道車 道(計画)	②市道車 道	③市道乗 入(計画)	④宅内 G(計画)	⑤宅内G	⑥宅内G	合 計	計上数量	備 考	交通計上数量
	L=36.14m	L=6.17m	L=2.50m	L=18.80m	L=0.57m	L=1.20m				
A. 人 力 掘 削										
B. 機 械 掘 削	9.259	3.857	0.776	4.986	0.300	0.451	19.629	20 m3		14.000
C. 床 均 し										
D. 埋 戻 し	4.337	1.666	0.435	2.256	0.222	0.144	9.060	9 m3	発生土	4
E. 埋 戻 し									発生土RC-100	
F. 山 砂 埋 戻 工	4.902	0.887	0.339	2.704	0.077	0.163	9.072	9 m3	山砂	5
G. 残 土 処 分	4.922	2.191	0.341	2.730	0.078	0.307	10.569	11 m3	発生土	
H. 残 土 処 分		0.185					0.185	0.2 m3	As	
I. 残 土 処 分									Co	
J. アスファルト廃材		0.185					0.185	0.2 m3		
K. コンクリート廃材										
L. 舗装版切断濁水処理		0.014					0.014	0.014 m3		
M. アスコン切断		12.340					12.340	12.3 m	t=15cmまで	12.3
N. アスコン切断									t=30cmまで	
O. コンクリート舗装切断									t=15cmまで	
P. 舗装版直接掘削積込		3.702					3.702	4 m2	t=15cm以下(As版)	4
Q. 舗装版直接掘削積込									t=10cm以下(As版)	
R. 舗装版直接掘削積込									t=10cm(Co版)	
S. 舗 装 版 破 碎									t= 25 cm	
T. 仮 復 旧		3.702					3.702	4 m2	車道部(t=5cm)	4
U. 仮 復 旧									歩道部(t=3cm)	
V. 仮 復 旧									宅地内(t=3cm)	
W. コンクリート打設										
X. 路 盤 工									再生 t=37cm	
Z. 路 盤 工		3.702					3.702	4 m2	再生 t=35cm	4
Y. 路 盤 工									再生 t=25cm	
Z. 路 盤 工						0.720		0.7 m2	再生 t=20cm	
a. 路 盤 工									再生 t=10cm	
b. 凍 上 抑 制 層									再生 t=15cm	
c. 下 層 路 盤 工										
d. 土 留 工									標準 φ mm	
e. 土 留 工									継手掘 φ mm	
f. 土 留 工									下越工 1.80m未満	
g. 土 留 工									下越工 m未満	
h. 土 留 工									1.80 m以上	
i. 区 画 線									実線 白 W=15cm	
j. 区 画 線									実線 黄 W=15cm	
k. 区 画 線									矢印・記号・文字 15cm換算	

※ 太線内数量は交通誘導員に計上

## 8. 土工 数量計算書



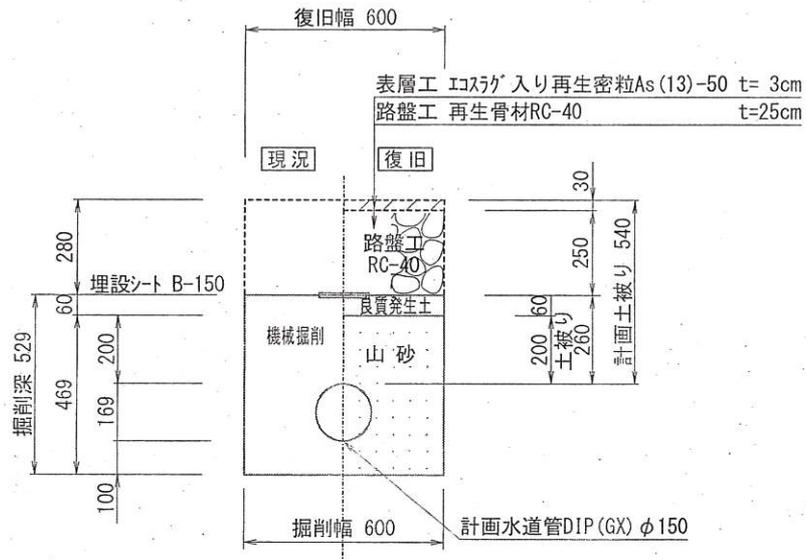
口径・工種別土工数量計算表

1 DIP (GX) φ 150mm				
名 称	③計画歩道部 L= 38.03 m ( DP0.26)			
	L = 38.03 + + + + + + +			
	計算式 (距離×基本数値)	面積・体積	計上数値	備考
A. 機械掘削 (会所掘削)	38.030 × 0.317	12.056	12.056 m <sup>3</sup>	
B. 人力掘削				
C. 山砂埋戻	38.030 × 0.259	9.850	9.850 m <sup>3</sup>	
D. 発生土埋戻	38.030 × 0.036	1.369	1.369 m <sup>3</sup>	
E. ダンプトラック運搬 (発生土)	38.030 × 0.281	10.686	10.686 m <sup>3</sup>	
F. ダンプトラック運搬 (アスファルト塊)				
G. アスファルト廃材処理				
H. ダンプトラック運搬 (コンクリート塊)				
I. コンクリート廃材処理				
J. 舗装版切断濁水処理				
K. 舗装版直接掘削・積込 (バックホウ) t= cm				アスファルト舗装版 舗装版厚10cm超15cm以下
L. 舗装版直接掘削・積込 (バックホウ)t=3・10cm				アスファルト舗装版 舗装版厚10cm以下
M. 舗装版直接掘削・積込 (バックホウ) t= cm				コンクリート舗装版 舗装版厚10cm以下
N. As舗装版切断				舗装版切断深 t=30cmまで
O. As舗装版切断				舗装版切断深 t=15cmまで
P. Co舗装版切断				舗装版切断深 t=15cmまで
Q. 路盤工				再生骨材 RC-40 路盤厚37cm
R. 路盤工				再生骨材 RC-40 路盤厚35cm
S. 路盤工				再生骨材 RC-40 路盤厚25cm
T. 路盤工				再生骨材 RC-40 路盤厚20cm
U. 路盤工				再生骨材 RC-40 路盤厚10cm
V. コンクリート打設				18-8-25N 舗装厚10cm
W. 復旧工：表層工 (車道・人力施工)				エコスタク 再生密粒As(20)-50 舗装厚5cm
X. 復旧工：表層工 (歩道・機械施工)				エコスタク 再生密粒As(13)-50 舗装厚3cm
Y. 木矢板建込み				H=1.80
Z. 木製支保工1段				
a. 木矢板建込み				H=2.10
b. 木矢板建込み				H=2.40
c. 木製支保工2段				
d. 区画線				実線 白 W=15cm

③計画歩道部

DIP (GX) φ 150 平均DP0.26m(計画平均DP0.54m)

名称	略図及び計算式	数量
----	---------	----



1 m 当たり数量

As舗装切断 t= cm	L =	=	m
舗装版破碎掘削積込 t= cm	A =	=	m <sup>2</sup>
廃材処理・運搬	V =	=	m <sup>3</sup>
舗装版切断濁水処理	V =	=	m <sup>3</sup>
機械掘削工(会所掘部)	V = 0.600 × 0.529 × 1.000	= 0.317	0.317 m <sup>3</sup> /m
人力掘削工	V =	=	m <sup>3</sup> /m
山砂埋戻工	V = (0.600 × 0.469 - π/4 × 0.169 <sup>2</sup> ) × 1.000	= 0.259	0.259 m <sup>3</sup> /m
発生土埋戻	V = 0.600 × 0.060 × 1.000	= 0.036	0.036 m <sup>3</sup> /m
残土処分工(土砂)	V = 掘削土量0.317 - 埋戻し土量0.036	= 0.281	0.281 m <sup>3</sup> /m
仮復旧 路盤工 t= cm	A =	=	m <sup>2</sup> /m
表層工 t= cm	A =	=	m <sup>2</sup> /m
土留工 H= (木製支保工 段)	L =	=	m/m

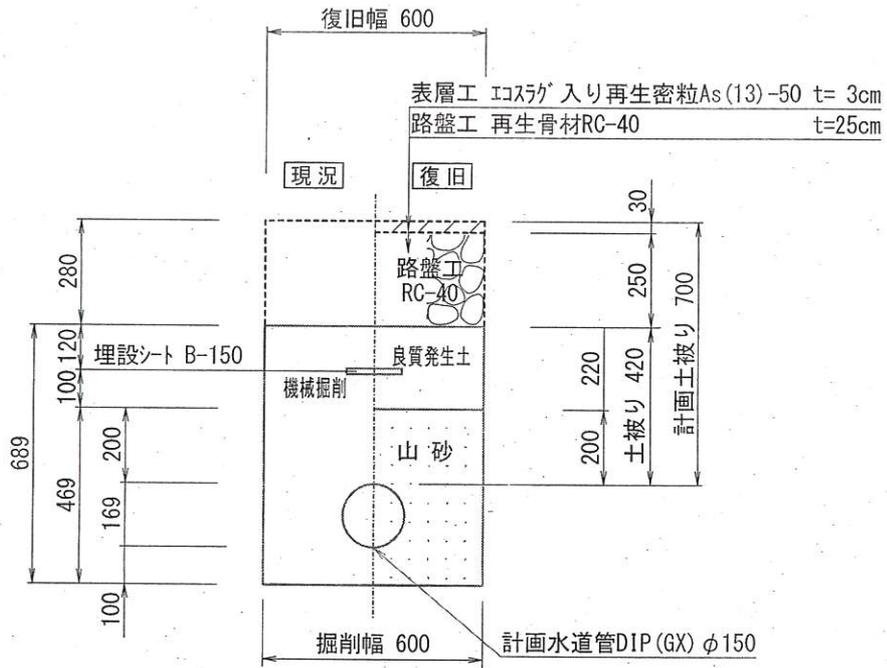
口径・工種別土工数量計算表

1 DIP(GX) φ150mm				
名 称	④計画歩道部 L= 25.56 m ( DP0.42)			
	L = 25.56 + + + + + + +	面積・体積	計上数値	備考
	計算式 (距離×基本数値)			
A. 機械掘削 (会所掘削)	25.560 × 0.413	10.556	10.556 m3	
B. 人力掘削				
C. 山砂埋戻	25.560 × 0.259	6.620	6.620 m3	
D. 発生土埋戻	25.560 × 0.132	3.374	3.374 m3	
E. ダンプトラック運搬 (発生土)	25.560 × 0.281	7.182	7.182 m3	
F. ダンプトラック運搬 (アスファルト塊)				
G. アスファルト廃材処理				
H. ダンプトラック運搬 (コンクリート塊)				
I. コンクリート廃材処理				
J. 舗装版切断濁水処理				
K. 舗装版直接掘削・積込 (バックホウ) t= cm				アスファルト舗装版 舗装版厚10cm超15cm以下
L. 舗装版直接掘削・積込 (バックホウ)t=3・10cm				アスファルト舗装版 舗装版厚10cm以下
M. 舗装版直接掘削・積込 (バックホウ) t= cm				コンクリート舗装版 舗装版厚10cm以下
N. As舗装版切断				舗装版切断深 t=30cmまで
O. As舗装版切断				舗装版切断深 t=15cmまで
P. Co舗装版切断				舗装版切断深 t=15cmまで
Q. 路盤工				再生骨材 RC-40 路盤厚37cm
R. 路盤工				再生骨材 RC-40 路盤厚35cm
S. 路盤工				再生骨材 RC-40 路盤厚25cm
T. 路盤工				再生骨材 RC-40 路盤厚20cm
U. 路盤工				再生骨材 RC-40 路盤厚10cm
V. コンクリート打設				18-8-25N 舗装厚10cm
W. 復旧工：表層工 (車道・人力施工)				エコスグ 再生密粒As(20)-50 舗装厚5cm
X. 復旧工：表層工 (歩道・機械施工)				エコスグ 再生密粒As(13)-50 舗装厚3cm
Y. 木矢板建込み				H=1.80
Z. 木製支保工1段				
a. 木矢板建込み				H=2.10
b. 木矢板建込み				H=2.40
c. 木製支保工2段				
d. 区画線				表線 白 W=15cm

④計画歩道部

DIP (GX) φ 150 DP0.42m(計画DP0.70m)

名称	略図及び計算式	数量
----	---------	----



1 m 当たり数量

As舗装切断 t= cm	L =	=	m
舗装版破砕掘削積込 t= cm	A =	=	m <sup>2</sup>
廃材処理・運搬	V =	=	m <sup>3</sup>
舗装版切断濁水処理	V =	=	m <sup>3</sup>
機械掘削工(会所掘部)	V = 0.600 × 0.689 × 1.000	= 0.413	0.413 m <sup>3</sup> /m
人力掘削工	V =	=	m <sup>3</sup> /m
山砂埋戻工	V = (0.600 × 0.469 - π/4 × 0.169 <sup>2</sup> ) × 1.000	= 0.259	0.259 m <sup>3</sup> /m
発生土埋戻	V = 0.600 × 0.220 × 1.000	= 0.132	0.132 m <sup>3</sup> /m
残土処分工(土砂)	V = 掘削土量0.413 - 埋戻し土量0.132	= 0.281	0.281 m <sup>3</sup> /m
仮復旧 路盤工 t= cm	A =	=	m <sup>2</sup> /m
表層工 t= cm	A =	=	m <sup>2</sup> /m
土留工 H= (木製支保工 段)	L =	=	m/m

布設工 L=	②計画歩道部	③計画歩道部	④計画歩道部							合計		備考		
										単位	体積・面積		計上数値	
	38.76 m	23.45m	3.49m											
A. 機械掘削 (会所掘削)	12.054	8.981	2.028								m3	23.063	23	
B. 人力掘削														
C. 山砂埋戻	9.302	5.628	0.838								m3	15.768	16	
D. 発生土埋戻	2.326	3.095	1.152								m3	6.573	7	
E. タンクトラック運搬 (発生土)	9.729	5.886	0.876								m3	16.491	16	
F. タンクトラック運搬 (アスファルト塊)														
G. アスファルト廃材処理														
H. タンクトラック運搬 (コンクリート塊)														
I. コンクリート廃材処理														
J. 舗装版切断濁水処理														
K. 舗装版直接掘削・積込 (バックホウ) t= cm														アスファルト舗装版 舗装版厚10cm超15cm以下
L. 舗装版直接掘削・積込 (バックホウ) t=5cm														アスファルト舗装版 舗装版厚10cm以下
M. 舗装版直接掘削・積込 (バックホウ) t= cm														コンクリート舗装版 舗装版厚10cm以下
N. As舗装版切断														舗装版切断深 t=30cmまで
O. As舗装版切断														舗装版切断深 t=15cmまで
P. Co舗装版切断														舗装版切断深 t=15cmまで
Q. 路盤工														再生骨材 RC-40 路盤厚65cm
R. 路盤工														再生骨材 RC-40 路盤厚30cm
S. 路盤工														再生骨材 RC-40 路盤厚20cm
T. 路盤工														再生骨材 RC-40 路盤厚15cm
U. 路盤工														再生骨材 RC-40 路盤厚10cm
V. コンクリート打設														18-8-25N 舗装厚10cm
W. 復旧工：表層工 (車道・人力施工)														エスタク再生密粒As (20)-50 舗装厚5cm
X. 復旧工：表層工 (歩道・機械施工)														エスタク再生密粒As (20)-50 舗装厚3cm
Y. 木矢板建込み														H=1.80
Z. 木製支保工1段														
a. 木矢板建込み														H=2.10
b. 木矢板建込み														H=2.40
c. 木製支保工2段														
d. 区画線														実線 白 W=15cm

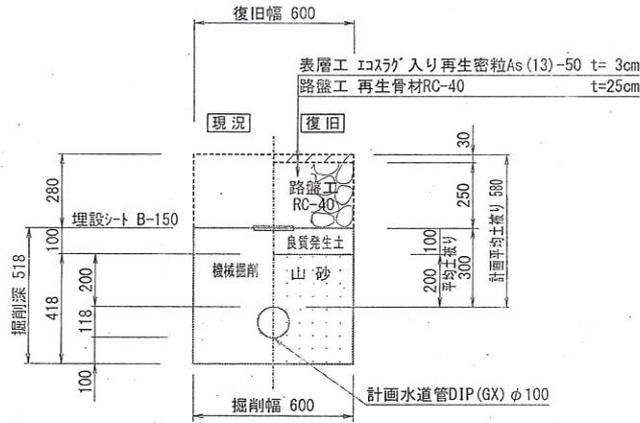
口径・工種別土工数量計算表

2 DIP(GX) φ100mm				
名 称	②計画歩道部 L= 38.76 m (平均DP0.30)			
	L = 38.76 + + + + + + +	面積・体積	計上数値	備考
	計算式 (距離×基本数値)			
A. 機械掘削 (会所掘削)	38.760 × 0.311	12.054	12.054 m <sup>3</sup>	
B. 人力掘削				
C. 山砂埋戻	38.760 × 0.240	9.302	9.302 m <sup>3</sup>	
D. 発生土埋戻	38.760 × 0.060	2.326	2.326 m <sup>3</sup>	
E. ゲンプトラック運搬 (発生土)	38.760 × 0.251	9.729	9.729 m <sup>3</sup>	
F. ゲンプトラック運搬 (アスファルト塊)				
G. アスファルト廃材処理				
H. ゲンプトラック運搬 (コンクリート塊)				
I. コンクリート廃材処理				
J. 舗装版切断濁水処理				
K. 舗装版直接掘削・積込 (バックホウ) t= cm				アスファルト舗装版 舗装版厚10cm超15cm以下
L. 舗装版直接掘削・積込 (バックホウ)t=3・10cm				アスファルト舗装版 舗装版厚10cm以下
M. 舗装版直接掘削・積込 (バックホウ) t= cm				コンクリート舗装版 舗装版厚10cm以下
N. As舗装版切断				舗装版切断深 t=30cmまで
O. As舗装版切断				舗装版切断深 t=15cmまで
P. Co舗装版切断				舗装版切断深 t=15cmまで
Q. 路盤工				再生骨材 RC-40 路盤厚65cm
R. 路盤工				再生骨材 RC-40 路盤厚35cm
S. 路盤工				再生骨材 RC-40 路盤厚25cm
T. 路盤工				再生骨材 RC-40 路盤厚20cm
U. 路盤工				再生骨材 RC-40 路盤厚10cm
V. コンクリート打設				18-8-25N 舗装厚10cm
W. 復旧工：表層工 (車道・人力施工)				エコスラグ 再生密粒As(20)-50 舗装厚5cm
X. 復旧工：表層工 (歩道・機械施工)				エコスラグ 再生密粒As(13)-50 舗装厚3cm
Y. 木矢板建込み				H=1.80
Z. 木製支保工1段				
a. 木矢板建込み				H=2.10
b. 木矢板建込み				H=2.40
c. 木製支保工2段				
d. 区画線				実線 白 W=15cm

②計画歩道部

DIP (GX) φ 100 平均DP0.30m(計画平均DP0.58m)

名称	略図及び計算式	数量
----	---------	----



1 m 当たり数量

As舗装切断 t=cm	L =	=	m/m
舗装版直接掘削積込 t=cm	A =	=	m <sup>2</sup> /m
廃材処理・運搬	V =	=	m <sup>3</sup> /m
舗装版切断濁水処理	V =	=	m <sup>3</sup> /m
機械掘削工	V = 0.600 × 0.518 × 1.000	= 0.311	0.311 m <sup>3</sup> /m
人力掘削工	V =	=	m <sup>3</sup> /m
山砂埋戻工	V = (0.600 × 0.418 - π/4 × 0.118 <sup>2</sup> ) × 1.000	= 0.240	0.240 m <sup>3</sup> /m
発生土埋戻	V = 0.600 × 0.100 × 1.000	= 0.060	0.060 m <sup>3</sup> /m
残土処分工(土砂)	V = 掘削土量0.311 - 埋戻し土量0.060	= 0.251	0.251 m <sup>3</sup> /m
仮復旧 路盤工 t= cm	A =	=	m <sup>2</sup> /m
表層工 t= cm	A =	=	m <sup>2</sup> /m
土留工 H= (木製支保工 段)	L =	=	m/m

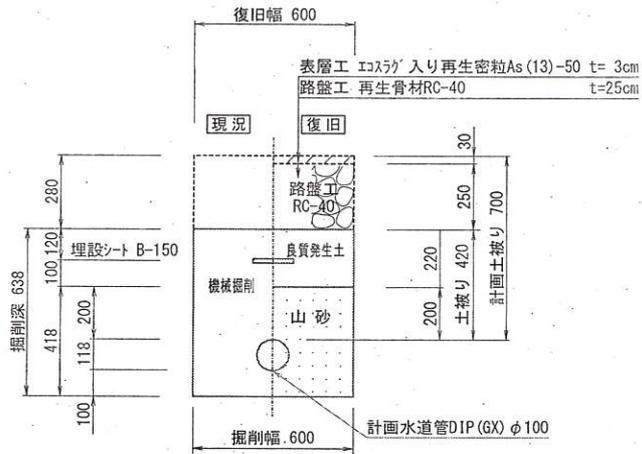
口径・工種別土工数量計算表

2 DIP(GX) φ100mm				
名 称	③計画歩道部 L= 23.45 m (DP0.42)			
	L = 23.45 + + + + + + +	面積・体積	計上数値	備考
	計算式 (距離×基本数値)			
A. 機械掘削 (会所掘削)	23.450 × 0.383	8.981	8.981 m <sup>3</sup>	
B. 人力掘削				
C. 山砂埋戻	23.450 × 0.240	5.628	5.628 m <sup>3</sup>	
D. 発生土埋戻	23.450 × 0.132	3.095	3.095 m <sup>3</sup>	
E. ダンプトラック運搬 (発生土)	23.450 × 0.251	5.886	5.886 m <sup>3</sup>	
F. ダンプトラック運搬 (アスファルト塊)				
G. アスファルト廃材処理				
H. ダンプトラック運搬 (コンクリート塊)				
I. コンクリート廃材処理				
J. 舗装版切断濁水処理				
K. 舗装版直接掘削・積込 (バックホウ) t= cm				アスファルト舗装版 舗装版厚10cm超15cm以下
L. 舗装版直接掘削・積込 (バックホウ)t=3・10cm				アスファルト舗装版 舗装版厚10cm以下
M. 舗装版直接掘削・積込 (バックホウ) t= cm				コンクリート舗装版 舗装版厚10cm以下
N. As舗装版切断				舗装版切断深 t=30cmまで
O. As舗装版切断				舗装版切断深 t=15cmまで
P. Co舗装版切断				舗装版切断深 t=15cmまで
Q. 路盤工				再生骨材 RC-40 路盤厚65cm
R. 路盤工				再生骨材 RC-40 路盤厚35cm
S. 路盤工				再生骨材 RC-40 路盤厚25cm
T. 路盤工				再生骨材 RC-40 路盤厚20cm
U. 路盤工				再生骨材 RC-40 路盤厚10cm
V. コンクリート打設				18-8-25N 舗装厚10cm
W. 復旧工：表層工 (車道・人力施工)				エコスグ 再生密粒As(20)-50 舗装厚5cm
X. 復旧工：表層工 (歩道・機械施工)				エコスグ 再生密粒As(13)-50 舗装厚3cm
Y. 木矢板建込み				H=1.80
Z. 木製支保工1段				
a. 木矢板建込み				H=2.10
b. 木矢板建込み				H=2.40
c. 木製支保工2段				
d. 区画線				実線 白 W=15cm

③計画歩道部

DIP (GX) φ 100 DP0. 42m(計画DP0. 70m)

名 称	略 図 及 び 計 算 式	数 量
-----	---------------	-----



1 m当たり数量

As舗装切断 t=cm	L =	=	m/m
舗装版直接掘削積込 t=cm	A =	=	m <sup>2</sup> /m
廃材処理・運搬	V =	=	m <sup>3</sup> /m
舗装版切断濁水処理	V =	=	m <sup>3</sup> /m
機械掘削工	V = 0.600 × 0.638 × 1.000	= 0.383	0.383 m <sup>3</sup> /m
人力掘削工	V =	=	m <sup>3</sup> /m
山砂埋戻工	V = (0.600 × 0.418 - π/4 × 0.118 <sup>2</sup> ) × 1.000	= 0.240	0.240 m <sup>3</sup> /m
発生土埋戻	V = 0.600 × 0.220 × 1.000	= 0.132	0.132 m <sup>3</sup> /m
残土処分工(土砂)	V = 掘削土量0.383 - 埋戻し土量0.132	= 0.251	0.251 m <sup>3</sup> /m
仮復旧 路盤工 t=cm	A =	=	m <sup>2</sup> /m
表層工 t=cm	A =	=	m <sup>2</sup> /m
土留工 H= (木製支保工 段)	L =	=	m/m

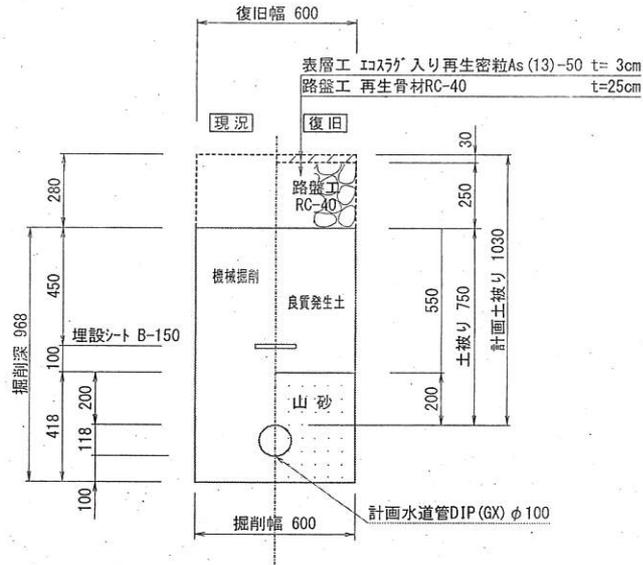
口径・工種別土工数量計算表

2 DIP (GX) φ100mm				
名 称	④計画歩道部 L= 3.49 m ( DP0.75)			
	L = 3.49 + + + + + + + +			
	計算式 (距離×基本数値)	面積・体積	計上数値	備考
A. 機械掘削 (会所掘削)	3.490 × 0.581	2.028	2.028 m <sup>3</sup>	
B. 人力掘削				
C. 山砂埋戻	3.490 × 0.240	0.838	0.838 m <sup>3</sup>	
D. 発生土埋戻	3.490 × 0.330	1.152	1.152 m <sup>3</sup>	
E. ダンプトラック運搬 (発生土)	3.490 × 0.251	0.876	0.876 m <sup>3</sup>	
F. ダンプトラック運搬 (アスファルト塊)				
G. アスファルト廃材処理				
H. ダンプトラック運搬 (コンクリート塊)				
I. コンクリート廃材処理				
J. 舗装版切断濁水処理				
K. 舗装版直接掘削・積込 (バックホウ) t= cm				アスファルト舗装版 舗装版厚10cm超15cm以下
L. 舗装版直接掘削・積込 (バックホウ)t=3・10cm				アスファルト舗装版 舗装版厚10cm以下
M. 舗装版直接掘削・積込 (バックホウ) t= cm				コンクリート舗装版 舗装版厚10cm以下
N. As舗装版切断				舗装版切断深 t=30cmまで
O. As舗装版切断				舗装版切断深 t=15cmまで
P. Co舗装版切断				舗装版切断深 t=15cmまで
Q. 路盤工				再生骨材 RC-40 路盤厚65cm
R. 路盤工				再生骨材 RC-40 路盤厚35cm
S. 路盤工				再生骨材 RC-40 路盤厚25cm
T. 路盤工				再生骨材 RC-40 路盤厚20cm
U. 路盤工				再生骨材 RC-40 路盤厚10cm
V. コンクリート打設				18-8-25N 舗装厚10cm
W. 復旧工：表層工 (車道・人力施工)				エコスラグ 再生密粒As(20)-50 舗装厚5cm
X. 復旧工：表層工 (歩道・機械施工)				エコスラグ 再生密粒As(13)-50 舗装厚3cm
Y. 木矢板建込み				H=1.80
Z. 木製支保工1段				
a. 木矢板建込み				H=2.10
b. 木矢板建込み				H=2.40
c. 木製支保工2段				
d. 区画線				実線 白 W=15cm

④計画歩道部

DIP (GX) φ 100 DP0.75m(計画DP1.03m)

名 称	略 図 及 び 計 算 式	数 量
-----	---------------	-----



1 m 当たり数量

As舗装切断 t= cm	L =	=	m
舗装版破砕掘削積込 t= cm	A =	=	m <sup>2</sup>
廃材処理・運搬	V =	=	m <sup>3</sup>
舗装版切断濁水処理	V =	=	m <sup>3</sup>
機械掘削工	V = 0.600 × 0.968 × 1.000	= 0.581	0.581 m <sup>3</sup> /m
人力掘削工	V =	=	m <sup>3</sup> /m
山砂埋戻工	V = (0.600 × 0.418 - π / 4 × 0.118 <sup>2</sup> ) × 1.000	= 0.240	0.240 m <sup>3</sup> /m
発生土埋戻	V = 0.600 × 0.550 × 1.000	= 0.330	0.330 m <sup>3</sup> /m
残土処分工(土砂)	V = 掘削土量0.581 - 埋戻し土量0.330	= 0.251	0.251 m <sup>3</sup> /m
仮復旧 路盤工 t= cm	A =	=	m <sup>2</sup> /m
表層工 t= cm	A =	=	m <sup>2</sup> /m
土留工 H= (木製支保工 段)	L =	=	m/m



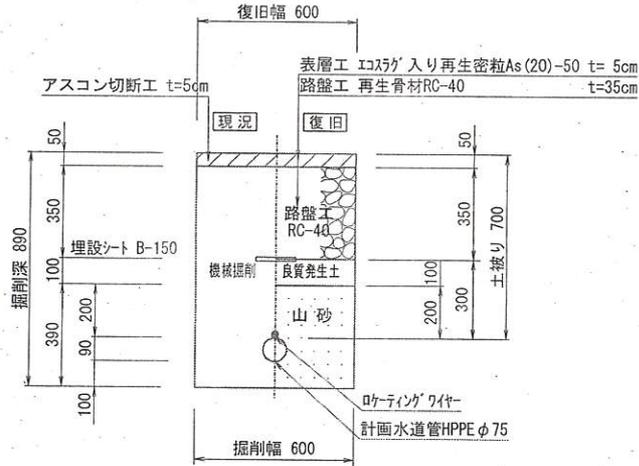
口径・工種別土工数量計算表

4 HPPE φ 75mm				
名 称	①市道車道部 L= 12.27 m ( DP0.70)			
	L = 11.82 + 0.45 + + + + + + +	面積・体積	計上数値	備考
	計算式 (距離×基本数値)			
A. 機械掘削 (会所掘削)	12.270 × 0.504	6.184	6.184 m3	
B. 人力掘削				
C. 山砂埋戻	12.270 × 0.228	2.798	2.798 m3	
D. 発生土埋戻	12.270 × 0.060	0.736	0.736 m3	
ダンプトラック運搬 E. (発生土)	12.270 × 0.444	5.448	5.448 m3	
ダンプトラック運搬 F. (アスファルト塊)	12.270 × 0.030	0.368	0.368 m3	
G. アスファルト廃材処理	12.270 × 0.030	0.368	0.368 m3	
ダンプトラック運搬 H. (コンクリート塊)				
I. コンクリート廃材処理				
J. 舗装版切断濁水処理	12.270 × 0.002	0.025	0.025 m3	
舗装版直接掘削・積込 K. (バックホウ) t= cm				アスファルト舗装版 舗装版厚10cm超15cm以下
舗装版直接掘削・積込 L. (バックホウ)t=3・5・10cm	12.270 × 0.600	7.362	7.362 m2	アスファルト舗装版 舗装版厚10cm以下
舗装版直接掘削・積込 M. (バックホウ) t= cm				コンクリート舗装版 舗装版厚10cm以下
N. As舗装版切断				舗装版切断深 t=30cmまで
O. As舗装版切断	12.270 × 2.000	24.540	24.540 m	舗装版切断深 t=15cmまで
P. Co舗装版切断				舗装版切断深 t=15cmまで
Q. 路盤工				再生骨材 RC-40 路盤厚65cm
R. 路盤工	12.270 × 0.600	7.362	7.362 m2	再生骨材 RC-40 路盤厚35cm
S. 路盤工				再生骨材 RC-40 路盤厚25cm
T. 路盤工				再生骨材 RC-40 路盤厚20cm
U. 路盤工				再生骨材 RC-40 路盤厚10cm
V. コンクリート打設				18-8-25N 舗装厚10cm
復旧工：表層工 W. (車道・人力施工)	12.270 × 0.600	7.362	7.362 m2	エコスラグ®再生密粒As(20)-50 舗装厚5cm
復旧工：表層工 X. (歩道・機械施工)				エコスラグ®再生密粒As(13)-50 舗装厚3cm
Y. 木矢板建込み				H=1.80
Z. 木製支保工1段				
a. 木矢板建込み				H=2.10
b. 木矢板建込み				H=2.40
c. 木製支保工2段				
d. 区画線				実線 白 W=15cm

名称

略図及び計算式

数量



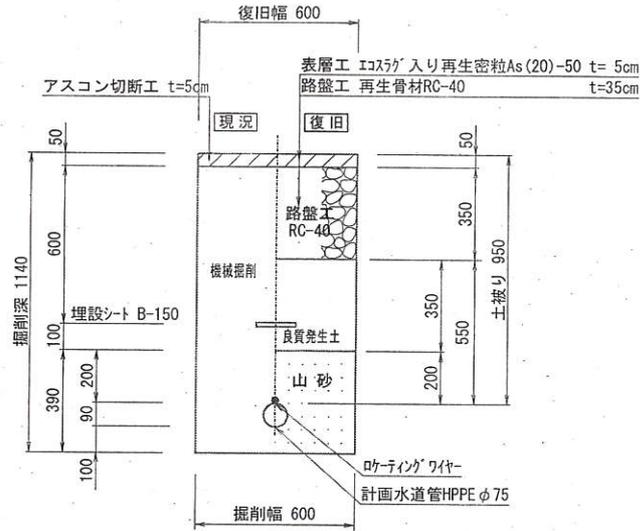
1 m 当たり数量

As舗装切斷 t=5cm	$L = 1.000 \times 2$	=	2.000	2.000 m/m
舗装版直接掘削積込 t=5cm	$A = 0.600 \times 1.000$	=	0.600	0.600 m <sup>2</sup> /m
廃材処理・運搬	$V = 0.600 \times 0.050 \times 1.000$	=	0.030	0.030 m <sup>3</sup> /m
舗装版切斷濁水処理	$V = 0.023 \times 0.050 \times 2.000$	=	0.002	0.002 m <sup>3</sup> /m
機械掘削工	$V = 0.600 \times (0.890 - 0.050) \times 1.000$	=	0.504	0.504 m <sup>3</sup> /m
人力掘削工	$V =$	=		m <sup>3</sup> /m
山砂埋戻工	$V = (0.600 \times 0.390 - \pi / 4 \times 0.090^2) \times 1.000$	=	0.228	0.228 m <sup>3</sup> /m
発生土埋戻	$V = 0.600 \times 0.100 \times 1.000$	=	0.060	0.060 m <sup>3</sup> /m
残土処分工(土砂)	$V = \text{掘削土量} 0.504 - \text{埋戻し土量} 0.060$	=	0.444	0.444 m <sup>3</sup> /m
仮復旧 路盤工 t=35cm	$A = 0.600 \times 1.000$	=	0.600	0.600 m <sup>2</sup> /m
表層工 t= 5cm	$A = 0.600 \times 1.000$	=	0.600	0.600 m <sup>2</sup> /m
土留工 H= (木製支保工 段)	$L =$	=		m/m

口径・工種別土工数量計算表

4 HPPE φ 75mm				
名 称	②市道車道部 L= 7.85 m ( DP0.95)			
	L = 7.85 + + + + + + + +	面積・体積	計上数値	備考
	計算式 (距離×基本数値)			
A. 機械掘削 (会所掘削)	7.850 × 0.654	5.134	5.134 m3	
B. 人力掘削				
C. 山砂埋戻	7.850 × 0.228	1.790	1.790 m3	
D. 発生土埋戻	7.850 × 0.210	1.649	1.649 m3	
E. ガンプトラック運搬 (発生土)	7.850 × 0.444	3.485	3.485 m3	
F. ガンプトラック運搬 (アスファルト塊)	7.850 × 0.030	0.236	0.236 m3	
G. アスファルト廃材処理	7.850 × 0.030	0.236	0.236 m3	
H. ガンプトラック運搬 (コンクリート塊)				
I. コンクリート廃材処理				
J. 舗装版切断濁水処理	7.850 × 0.002	0.016	0.016 m3	
K. 舗装版直接掘削・積込 (バックホウ) t= cm				アスファルト舗装版 舗装版厚10cm超15cm以下
L. 舗装版直接掘削・積込 (バックホウ)t=3・5・10cm	7.850 × 0.600	4.710	4.710 m2	アスファルト舗装版 舗装版厚10cm以下
M. 舗装版直接掘削・積込 (バックホウ) t= cm				コンクリート舗装版 舗装版厚10cm以下
N. As舗装版切断				舗装版切断深 t=30cmまで
O. As舗装版切断	7.850 × 2.000	15.700	15.700 m	舗装版切断深 t=15cmまで
P. Co舗装版切断				舗装版切断深 t=15cmまで
Q. 路盤工				再生骨材 RC-40 路盤厚65cm
R. 路盤工	7.850 × 0.600	4.710	4.710 m2	再生骨材 RC-40 路盤厚35cm
S. 路盤工				再生骨材 RC-40 路盤厚25cm
T. 路盤工				再生骨材 RC-40 路盤厚20cm
U. 路盤工				再生骨材 RC-40 路盤厚10cm
V. コンクリート打設				18-8-25N 舗装厚10cm
W. 復旧工：表層工 (車道・人力施工)	7.850 × 0.600	4.710	4.710 m2	エコスタク® 再生密粒As(20)-50 舗装厚5cm
X. 復旧工：表層工 (歩道・機械施工)				エコスタク® 再生密粒As(13)-50 舗装厚3cm
Y. 木矢板建込み				H=1.80
Z. 木製支保工1段				
a. 木矢板建込み				H=2.10
b. 木矢板建込み				H=2.40
c. 木製支保工2段				
d. 区画線				実線 白 W=15cm

名 称	略 図 及 び 計 算 式	数 量
-----	---------------	-----



1 m 当たり数量

As舗装切断 t=5cm	$L = 1.000 \times 2$	=	2.000	2.000 m/m
舗装版直接掘削積込 t=5cm	$A = 0.600 \times 1.000$	=	0.600	0.600 m <sup>2</sup> /m
廃材処理・運搬	$V = 0.600 \times 0.050 \times 1.000$	=	0.030	0.030 m <sup>3</sup> /m
舗装版切断濁水処理	$V = 0.023 \times 0.050 \times 2.000$	=	0.002	0.002 m <sup>3</sup> /m
機械掘削工	$V = 0.600 \times (1.140 - 0.050) \times 1.000$	=	0.654	0.654 m <sup>3</sup> /m
人力掘削工	$V =$	=		m <sup>3</sup> /m
山砂埋戻工	$V = (0.600 \times 0.390 - \pi / 4 \times 0.090^2) \times 1.000$	=	0.228	0.228 m <sup>3</sup> /m
発生土埋戻	$V = 0.600 \times 0.350 \times 1.000$	=	0.210	0.210 m <sup>3</sup> /m
残土処分工(土砂)	$V = \text{掘削土量} 0.654 - \text{埋戻し土量} 0.210$	=	0.444	0.444 m <sup>3</sup> /m
仮復旧 路盤工 t=35cm	$A = 0.600 \times 1.000$	=	0.600	0.600 m <sup>2</sup> /m
表層工 t= 5cm	$A = 0.600 \times 1.000$	=	0.600	0.600 m <sup>2</sup> /m
土留工 H= (木製支保工 段)	$L =$	=		m/m

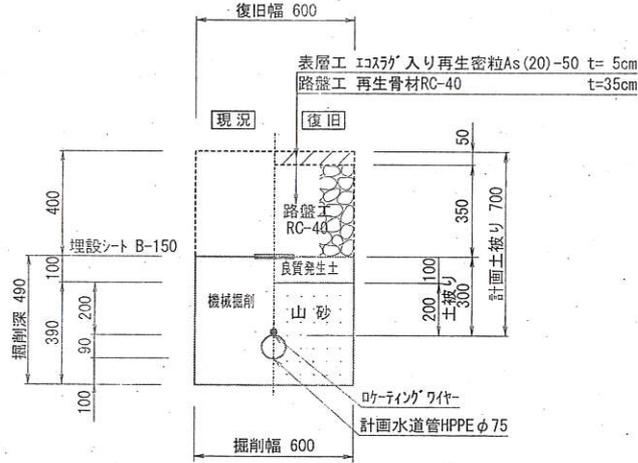
口径・工種別土工数量計算表

4 HPPE φ75mm					
名 称	③計画車道部 L= 84.24 m (DP0.30)				
	L = 48.91 + 35.33 + + + + + + +		面積・体積	計上数値	備考
	計算式 (距離×基本数値)				
A. 機械掘削 (会所掘含)	84.240 × 0.294		24.767	24.767 m3	
B. 人力掘削					
C. 山砂埋戻	84.240 × 0.228		19.207	19.207 m3	
D. 発生土埋戻	84.240 × 0.060		5.054	5.054 m3	
E. ダンプトラック運搬 (発生土)	84.240 × 0.234		19.712	19.712 m3	
F. ダンプトラック運搬 (アスファルト塊)					
G. アスファルト廃材処理					
H. ダンプトラック運搬 (コンクリート塊)					
I. コンクリート廃材処理					
J. 舗装版切断濁水処理					
K. 舗装版直接掘削・積込 (バックホウ) t= cm					アスファルト舗装版 舗装版厚10cm超15cm以下
L. 舗装版直接掘削・積込 (バックホウ)t=3・5・10cm					アスファルト舗装版 舗装版厚10cm以下
M. 舗装版直接掘削・積込 (バックホウ) t= cm					コンクリート舗装版 舗装版厚10cm以下
N. As舗装版切断					舗装版切断深 t=30cmまで
O. As舗装版切断					舗装版切断深 t=15cmまで
P. Co舗装版切断					舗装版切断深 t=15cmまで
Q. 路盤工					再生骨材 RC-40 路盤厚65cm
R. 路盤工					再生骨材 RC-40 路盤厚35cm
S. 路盤工					再生骨材 RC-40 路盤厚25cm
T. 路盤工					再生骨材 RC-40 路盤厚20cm
U. 路盤工					再生骨材 RC-40 路盤厚10cm
V. コンクリート打設					18-8-25N 舗装厚10cm
W. 復旧工：表層工 (車道・人力施工)					エコスタグ 再生密粒As(20)-50 舗装厚5cm
X. 復旧工：表層工 (歩道・機械施工)					エコスタグ 再生密粒As(13)-50 舗装厚3cm
Y. 木矢板建込み					H=1.80
Z. 木製支保工1段					
a. 木矢板建込み					H=2.10
b. 木矢板建込み					H=2.40
c. 木製支保工2段					
d. 区画線					実線 白 W=15cm

③計画車道部

HPPE φ 75 DPO. 30m(計画DPO. 70m)

名 称	略 図 及 び 計 算 式	数 量
-----	---------------	-----



1 m 当たり数量

As舗装切断 t=cm	L =	=	m/m
舗装版直接掘削積込 t=cm	A =	=	m <sup>2</sup> /m
廃材処理・運搬	V =	=	m <sup>3</sup> /m
舗装版切断濁水処理	V =	=	m <sup>3</sup> /m
機械掘削工	V = 0.600 × 0.490 × 1.000	= 0.294	0.294 m <sup>3</sup> /m
人力掘削工	V =	=	m <sup>3</sup> /m
山砂埋戻工	V = (0.600 × 0.390 - π/4 × 0.090 <sup>2</sup> ) × 1.000	= 0.228	0.228 m <sup>3</sup> /m
発生土埋戻	V = 0.600 × 0.100 × 1.000	= 0.060	0.060 m <sup>3</sup> /m
残土処分工(土砂)	V = 掘削土量0.294 - 埋戻し土量0.060	= 0.234	0.234 m <sup>3</sup> /m
仮復旧 路盤工 t=cm	A =	=	m <sup>2</sup> /m
表層工 t=cm	A =	=	m <sup>2</sup> /m
土留工 H= (木製支保工 段)	L =	=	m/m

口径・工種別土工数量計算表

4 HPPE φ 75mm					
名 称	④計画車道部 L= 11.64 m ( DP0.55)				
	L = 2.07 + 9.57 + + + + + + +		面積・体積	計上数値	備考
	計算式 (距離×基本数値)				
A. 機械掘削 (会所掘舎)	11.640	× 0.444	5.168	5.168 m3	
B. 人力掘削					
C. 山砂埋戻	11.640	× 0.228	2.654	2.654 m3	
D. 発生土埋戻	11.640	× 0.210	2.444	2.444 m3	
E. ダンプトラック運搬 (発生土)	11.640	× 0.234	2.724	2.724 m3	
F. ダンプトラック運搬 (アスファルト塊)					
G. アスファルト廃材処理					
H. ダンプトラック運搬 (コンクリート塊)					
I. コンクリート廃材処理					
J. 舗装版切断濁水処理					
K. 舗装版直接掘削・積込 (バックホウ) t= cm					アスファルト舗装版 舗装版厚10cm超15cm以下
L. 舗装版直接掘削・積込 (バックホウ)t=3・5・10cm					アスファルト舗装版 舗装版厚10cm以下
M. 舗装版直接掘削・積込 (バックホウ) t= cm					コンクリート舗装版 舗装版厚10cm以下
N. As舗装版切断					舗装版切断深 t=30cmまで
O. As舗装版切断					舗装版切断深 t=15cmまで
P. Co舗装版切断					舗装版切断深 t=15cmまで
Q. 路盤工					再生骨材 RC-40 路盤厚65cm
R. 路盤工					再生骨材 RC-40 路盤厚35cm
S. 路盤工					再生骨材 RC-40 路盤厚25cm
T. 路盤工					再生骨材 RC-40 路盤厚20cm
U. 路盤工					再生骨材 RC-40 路盤厚10cm
V. コンクリート打設					18-8-25N 舗装厚10cm
W. 復旧工：表層工 (車道・人力施工)					エスラグ 再生密粒As (20)-50 舗装厚5cm
X. 復旧工：表層工 (歩道・機械施工)					エスラグ 再生密粒As (13)-50 舗装厚3cm
Y. 木矢板建込み					H=1.80
Z. 木製支保工1段					
a. 木矢板建込み					H=2.10
b. 木矢板建込み					H=2.40
c. 木製支保工2段					
d. 区画線					実線 白 W=15cm



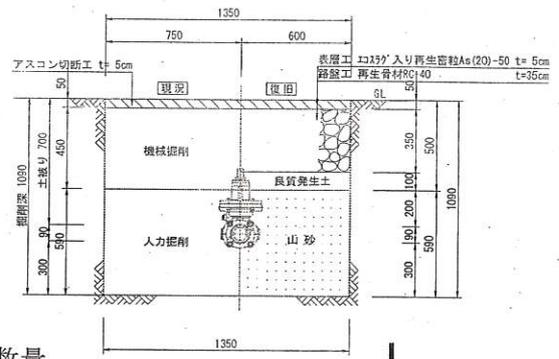
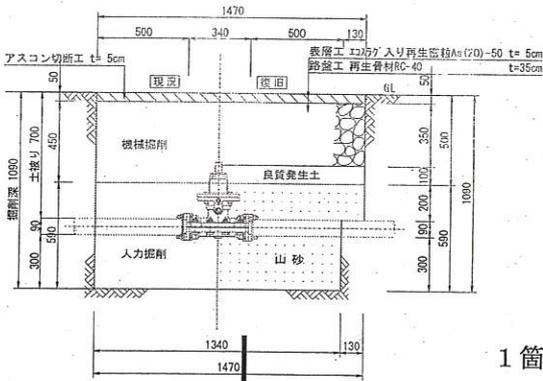
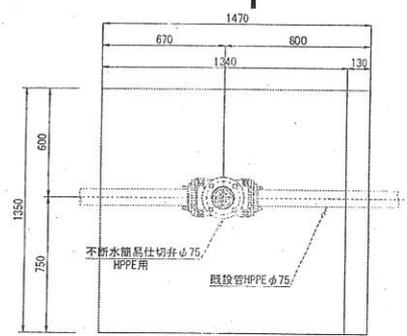
口径・工種別土工数量計算表

1 DIP (GX) φ 150mm				
名 称	⑤不断水簡易仕切弁 (市道車道部)			
	L= 1.47 m N= 1.00 箇所 (DPO.70)			
	N = 1.00 + + + + + + + + +			
	計算式 (距離×基本数値)	面積・体積	計上数値	備考
A. 機械掘削 (会所掘削)	1.000 × 0.893	0.893	0.893 m3	
B. 人力掘削	1.000 × 1.455	1.455	1.455 m3	
C. 山砂埋戻	1.000 × 1.455	1.455	1.455 m3	
D. 発生土埋戻	1.000 × 0.198	0.198	0.198 m3	
E. ダンプトラック運搬 (発生土)	1.000 × 2.150	2.150	2.150 m3	
F. ダンプトラック運搬 (アスファルト塊)	1.000 × 0.099	0.099	0.099 m3	
G. アスファルト廃材処理	1.000 × 0.099	0.099	0.099 m3	
H. ダンプトラック運搬 (コンクリート塊)				
I. コンクリート廃材処理				
J. 舗装版切断濁水処理	1.000 × 0.006	0.006	0.006 m3	
K. 舗装版直接掘削・積込 (バックホウ) t= cm				アスファルト舗装版 舗装版厚10cm超15cm以下
L. 舗装版直接掘削・積込 (バックホウ) t=3・5・10cm	1.000 × 1.985	1.985	1.985 m2	アスファルト舗装版 舗装版厚10cm以下
M. 舗装版直接掘削・積込 (バックホウ) t= cm				コンクリート舗装版 舗装版厚10cm以下
N. As舗装版切断				舗装版切断深 t=30cmまで
O. As舗装版切断	1.000 × 5.640	5.640	5.640 m	舗装版切断深 t=15cmまで
P. Co舗装版切断				舗装版切断深 t=15cmまで
Q. 路盤工				再生骨材 RC-40 路盤厚65cm
R. 路盤工	1.000 × 1.985	1.985	1.985 m2	再生骨材 RC-40 路盤厚35cm
S. 路盤工				再生骨材 RC-40 路盤厚25cm
T. 路盤工				再生骨材 RC-40 路盤厚20cm
U. 路盤工				再生骨材 RC-40 路盤厚10cm
V. コンクリート打設				18-8-25N 舗装厚10cm
W. 復旧工：表層工 (車道・人力施工)	1.000 × 1.985	1.985	1.985 m2	エコスラグ® 再生密粒As (20)-50 舗装厚5cm
X. 復旧工：表層工 (歩道・機械施工)				エコスラグ® 再生密粒As (13)-50 舗装厚3cm
Y. 木矢板建込み				H=1.80
Z. 木製支保工1段				
a. 木矢板建込み				H=2.10
b. 木矢板建込み				H=2.40
c. 木製支保工2段				
d. 区画線				実線 白 W=15cm

⑤ 不断水簡易仕切弁 (市道車道部)

不断水簡易仕切弁 φ75

名称	略図及び計算式	数量
----	---------	----



1 箇所当たり数量

As舗装切断 t=5cm	$L = (1.350 + 1.470) \times 2$	= 5.640	5.640 m
舗装版直接掘削積込 t=5cm	$A = 1.350 \times 1.470$	= 1.985	1.985 m <sup>2</sup>
廃材処理・運搬	$V = 1.350 \times 1.470 \times 0.050$	= 0.099	0.099 m <sup>3</sup>
舗装版切断濁水処理	$V = 0.023 \times 0.050 \times (5.64)$	= 0.006	0.006 m <sup>3</sup>
機械掘削工	$V = 0.1.350 \times 1.470 \times (0.500 - 0.050)$	= 0.893	0.893 m <sup>3</sup>
人力掘削工	$V_{1} = 1.350 \times 1.470 \times 0.200$ $V_{2} = 1.350 \times 1.340 \times 0.590$ $V_{3} = \pi / 4 \times .090^2 \times 1.340 \times -1$	= 0.397 = 1.067 = -0.009	
	合計	= 1.455	1.455 m <sup>3</sup>
山砂埋戻工	$V_{1} = 1.350 \times 1.470 \times 0.200$ $V_{2} = 1.350 \times 1.340 \times 0.590$ $V_{3} = \pi / 4 \times .090^2 \times 1.340 \times -1$	= 0.397 = 1.067 = -0.009	
	合計	= 1.455	1.455 m <sup>3</sup>
発生土埋戻	$V = 1.350 \times 1.470 \times 0.100$	= 0.198	0.198 m <sup>3</sup>
残土処分工(土砂)	$V = \text{機械掘削} + \text{人力掘削土量} 2.348 - \text{埋戻し土量} 0.198$	= 2.150	2.150 m <sup>3</sup>
仮復旧 路盤工 t=35cm	$A = 1.350 \times 1.470$	= 1.985	1.985 m <sup>2</sup>
表層工 t= 5cm	$A = 1.350 \times 1.470$	= 1.985	1.985 m <sup>2</sup>
土留工 H= (木製支保工 段)	$L =$	=	m/m



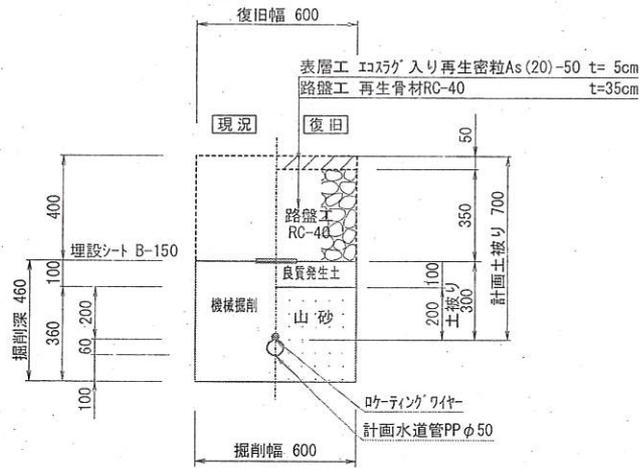
口径・工種別土工数量計算表

4 PP φ 50mm				
名 称	①計画車道部 L= 19.20 m ( DP0.30)			
	L = 3.36 + 15.84 + + + + + + +	面積・体積	計上数値	備考
	計算式 (距離×基本数値)			
A. 機械掘削 (会所掘削)	19.200 × 0.276	5.299	5.299 m3	
B. 人力掘削				
C. 山砂埋戻	19.200 × 0.213	4.090	4.090 m3	
D. 発生土埋戻	19.200 × 0.060	1.152	1.152 m3	
E. ダンプトラック運搬 (発生土)	19.200 × 0.216	4.147	4.147 m3	
F. ダンプトラック運搬 (アスファルト塊)				
G. アスファルト廃材処理				
H. ダンプトラック運搬 (コンクリート塊)				
I. コンクリート廃材処理				
J. 舗装版切断濁水処理				
K. 舗装版直接掘削・積込 (バックホウ) t= cm				アスファルト舗装版 舗装版厚10cm超15cm以下
L. 舗装版直接掘削・積込 (バックホウ)t=3・10cm				アスファルト舗装版 舗装版厚10cm以下
M. 舗装版直接掘削・積込 (バックホウ) t= cm				コンクリート舗装版 舗装版厚10cm以下
N. As舗装版切断				舗装版切断深 t=30cmまで
O. As舗装版切断				舗装版切断深 t=15cmまで
P. Co舗装版切断				舗装版切断深 t=15cmまで
Q. 路盤工				再生骨材 RC-40 路盤厚65cm
R. 路盤工				再生骨材 RC-40 路盤厚35cm
S. 路盤工				再生骨材 RC-40 路盤厚25cm
T. 路盤工				再生骨材 RC-40 路盤厚20cm
U. 路盤工				再生骨材 RC-40 路盤厚10cm
V. コンクリート打設				18-8-25N 舗装厚10cm
W. 復旧工：表層工 (車道・人力施工)				エコスタグ 再生密粒As(20)-50 舗装厚5cm
X. 復旧工：表層工 (歩道・機械施工)				エコスタグ 再生密粒As(13)-50 舗装厚3cm
Y. 木矢板建込み				H=1.80
Z. 木製支保工1段				
a. 木矢板建込み				H=2.10
b. 木矢板建込み				H=2.40
c. 木製支保工2段				
d. 区画線				実線 白 W=15cm

①計画車道部

PP φ 50 DP0. 30m(計画DP0. 70m)

名 称	略図及び計算式	数 量
-----	---------	-----



1 m 当たり数量

As舗装切断 t=cm	L =	=	m/m
舗装版直接掘削積込 t=cm	A =	=	m <sup>2</sup> /m
廃材処理・運搬	V =	=	m <sup>3</sup> /m
舗装版切断濁水処理	V =	=	m <sup>3</sup> /m
機械掘削工	V = 0.600 × 0.460 × 1.000	= 0.276	0.276 m <sup>3</sup> /m
人力掘削工	V =	=	m <sup>3</sup> /m
山砂埋戻工	V = (0.600 × 0.360 - π / 4 × 0.060 <sup>2</sup> ) × 1.000	= 0.213	0.213 m <sup>3</sup> /m
発生土埋戻	V = 0.600 × 0.100 × 1.000	= 0.060	0.060 m <sup>3</sup> /m
残土処分工(土砂)	V = 掘削土量0.276 - 埋戻し土量0.060	= 0.216	0.216 m <sup>3</sup> /m
仮復旧 路盤工 t=cm	A =	=	m <sup>2</sup> /m
表層工 t=cm	A =	=	m <sup>2</sup> /m
土留工 H= (木製支保工 段)	L =	=	m/m

口径・工種別土工数量計算表

4 PP φ 50mm				
名 称	②計画車道部 L= 3.63 m ( DP0.60)			
	L = 3.63 + + + + + + + +	面積・体積	計上数値	備考
	計算式 (距離×基本数値)			
A. 機械掘削 (会所掘削)	3.630 × 0.456	1.655	1.655 m3	
B. 人力掘削				
C. 山砂埋戻	3.630 × 0.213	0.773	0.773 m3	
D. 発生土埋戻	3.630 × 0.240	0.871	0.871 m3	
E. ダンプトラック運搬 (発生土)	3.630 × 0.216	0.784	0.784 m3	
F. ダンプトラック運搬 (アスファルト塊)				
G. アスファルト廃材処理				
H. ダンプトラック運搬 (コンクリート塊)				
I. コンクリート廃材処理				
J. 舗装版切断濁水処理				
K. 舗装版直接掘削・積込 (バックホウ) t= cm				アスファルト舗装版 舗装版厚10cm超15cm以下
L. 舗装版直接掘削・積込 (バックホウ)t=3・10cm				アスファルト舗装版 舗装版厚10cm以下
M. 舗装版直接掘削・積込 (バックホウ) t= cm				コンクリート舗装版 舗装版厚10cm以下
N. As舗装版切断				舗装版切断深 t=30cmまで
O. As舗装版切断				舗装版切断深 t=15cmまで
P. Co舗装版切断				舗装版切断深 t=15cmまで
Q. 路盤工				再生骨材 RC-40 路盤厚65cm
R. 路盤工				再生骨材 RC-40 路盤厚35cm
S. 路盤工				再生骨材 RC-40 路盤厚25cm
T. 路盤工				再生骨材 RC-40 路盤厚20cm
U. 路盤工				再生骨材 RC-40 路盤厚10cm
V. コンクリート打設				18-8-25N 舗装厚10cm
W. 復旧工：表層工 (車道・人力施工)				エコスタグ 再生密粒As(20)-50 舗装厚5cm
X. 復旧工：表層工 (歩道・機械施工)				エコスタグ 再生密粒As(13)-50 舗装厚3cm
Y. 木矢板建込み				H=1.80
Z. 木製支保工1段				
a. 木矢板建込み				H=2.10
b. 木矢板建込み				H=2.40
c. 木製支保工2段				
d. 区画線				実線 白 W=15cm



# 給水土工基本数値

名 称	略 図 及 び 計 算 式	数 値
給水管  ①市道車道(計画) ( DP 0.30 m ) 計画DP0.70m		管外径 27mm 掘削深 0.427m 砂基礎高 0.227m 土工延長 36.14m
As舗装切断 t= cm		m
舗装版直接掘削積込		m <sup>2</sup>
廃材処理・運搬 As		m <sup>3</sup>
舗装版切断濁水処理		m <sup>3</sup>
機械掘削工	$0.600 \times 0.427 \times 36.140$	9.259 m <sup>3</sup>
山砂埋戻工	$(0.600 \times 0.227 - \pi/4 \times 0.027^2) \times 36.140$	4.902 m <sup>3</sup>
発生土埋戻	$0.600 \times 0.200 \times 36.140$	4.337 m <sup>3</sup>
残土処分(土砂)	掘削土量9.259 - 埋戻し土量4.337	4.922 m <sup>3</sup>
仮復旧 路盤工 t= cm		m <sup>2</sup>
表層工 t= cm		m <sup>2</sup>

# 給水土工基本数値

名称	略図及び計算式	数値
給水管 ②市道車道 (DP 0.95 m)	<p style="text-align: center;">② 市道車道 土被り 0.55m</p> <p style="text-align: center;">現況      復旧</p>	<p>※代表管径で計算 管外径      42mm 掘削深      1.092m 砂基礎高    0.242m 土工延長    6.17m</p>
As舗装切断 t= 5cm	$6.170 \times 2$	12.340 m
舗装版直接掘削積込	$0.600 \times 6.170$	3.702 m <sup>2</sup>
廃材処理・運搬 As	$0.600 \times 6.170 \times 0.05$	0.185 m <sup>3</sup>
舗装版切断濁水処理	$12.340 \times 0.05 \times 0.023$	0.014 m <sup>3</sup>
機械掘削工	$0.600 \times (1.092 - 0.05) \times 6.170$	3.857 m <sup>3</sup>
山砂埋戻工	$(0.600 \times 0.242 - \pi/4 \times 0.042^2) \times 6.170$	0.887 m <sup>3</sup>
発生土埋戻	$0.600 \times 0.450 \times 6.170$	1.666 m <sup>3</sup>
残土処分(土砂)	掘削土量3.857 - 埋戻し土量1.666	2.191 m <sup>3</sup>
仮復旧 路盤工 t= 35cm	$0.600 \times 6.170$	3.702 m <sup>2</sup>
表層工 t= 5cm	$0.600 \times 6.170$	3.702 m <sup>3</sup>

# 給水土工基本数値

名 称	略 図 及 び 計 算 式	数 値
給水管 ③市道乗入(計画) (平均DP 0.39 m ) 計画平均DP0.79m	<div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-bottom: 10px;"> <span>現況</span> <span>復旧</span> </div>	※代表管径で計算 管外径 27mm 掘削深 0.517m 砂基礎高 0.227m 土工延長 2.50m
As舗装切断 t= cm		m
舗装版直接掘削積込		m <sup>2</sup>
廃材処理・運搬 As		m <sup>3</sup>
舗装版切断濁水処理		m <sup>3</sup>
機械掘削工	$0.600 \times 0.517 \times 2.500$	$0.776 \text{ m}^3$
山砂埋戻工	$(0.600 \times 0.227 - \pi/4 \times 0.027^2) \times 2.500$	$0.339 \text{ m}^3$
発生土埋戻	$0.600 \times 0.290 \times 2.500$	$0.435 \text{ m}^3$
残土処分(土砂)	掘削土量0.776-埋戻し土量0.435	$0.341 \text{ m}^3$
仮復旧 路盤工 t= cm		m <sup>2</sup>
表層工 t= cm		m <sup>2</sup>

# 給水土工基本数値

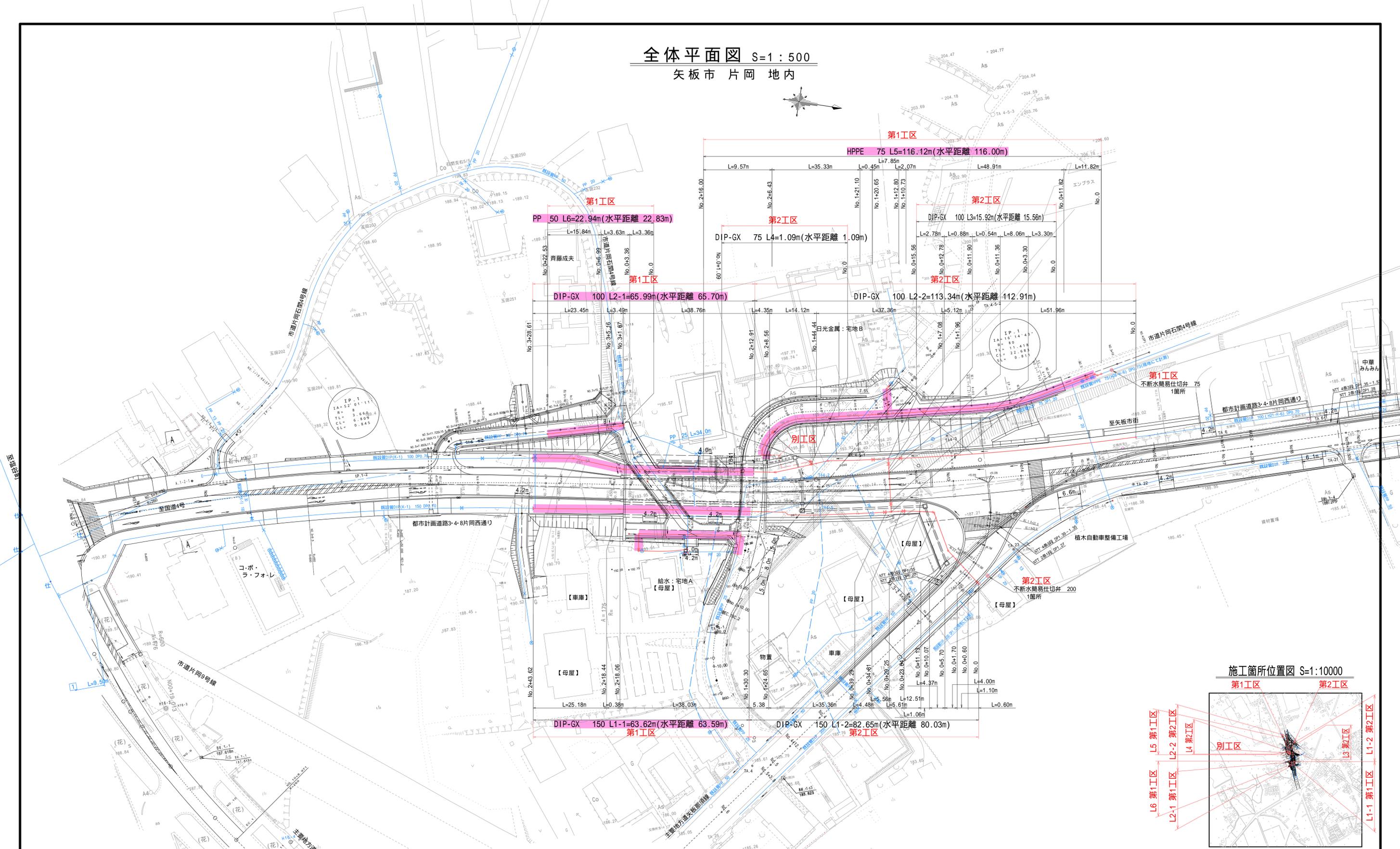
名 称	略 図 及 び 計 算 式	数 値
給水管 ④宅内 G (計画) (DP 0.30 m ) 計画DP0.50m		※代表管径で計算 管外径 42mm 掘削深 0.442m 砂基礎高 0.242m 土工延長 18.80m
As舗装切断 t= cm		m
舗装版直接掘削積込		m <sup>2</sup>
廃材処理・運搬 As		m <sup>3</sup>
舗装版切断濁水処理		m <sup>3</sup>
機械掘削工	$0.600 \times 0.442 \times 18.800$	4.986 m <sup>3</sup>
山砂埋戻工	$(0.600 \times 0.242 - \pi/4 \times 0.042^2) \times 18.800$	2.704 m <sup>3</sup>
発生土埋戻	$0.600 \times 0.200 \times 18.800$	2.256 m <sup>3</sup>
残土処分(土砂)	掘削土量4.986 - 埋戻し土量2.256	2.730 m <sup>3</sup>
仮復旧 路盤工 t= cm		m <sup>2</sup>
表層工 t= cm		m <sup>3</sup>



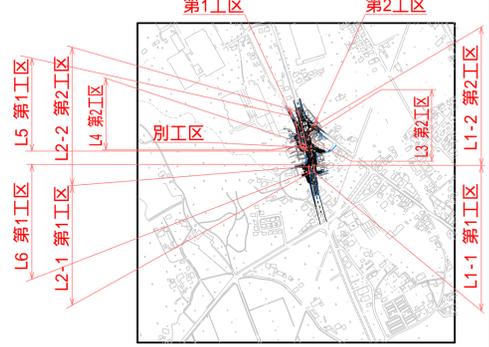


# 全体平面図 S=1:500

矢板市 片岡 地内



## 施工箇所位置図 S=1:10000



変更後

K.No	1-1	1-2	Y	0.724	0.926
IA	13-24-41	9-49-43	CL	59,497	27,193
R	600,000	450,000	TC	96,085	63,709
L	51,042	50,000	Sp	51,038	49,993
R	0.181	0.231	W	70,566	38,712
XI	25,519	24,997	A	175,000	150,000
X	51,032	49,985			

変更後

IP.No	1	IP.2	Y	0.810	0.810
K.No	1	2	LC	51,205	
IA	10*02-47	2	CL	159,205	79,754
R	600,000		TC	79,754	79,754
L	54,000	54,000	Sp	53,995	53,995
R	0.202	0.202	W	52,756	180,000
XI	26,998	26,998	A	180,000	180,000
X	53,989	53,989			

R7実施

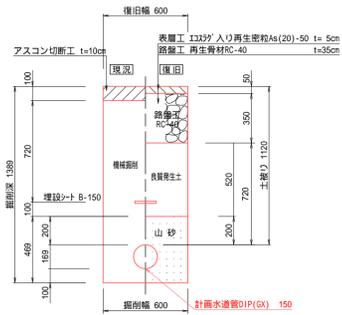
発注者	矢板市役所
事業名	配水管布設工事 第8号 矢板市片岡地内
図面	全体平面図
縮尺	図示
設計年月日	設計年月日
図番	1 / 5
検印	照査 設計 製図
設計	設計



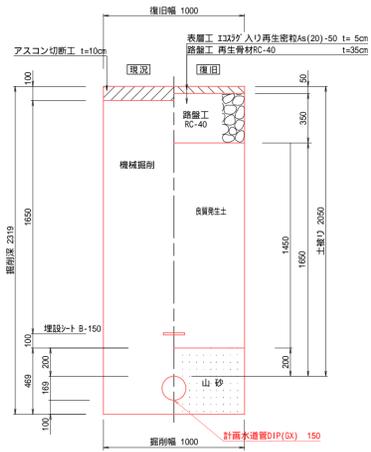
# 標準土工定規図 - 1 S=1:25

## DIP(GX) 150

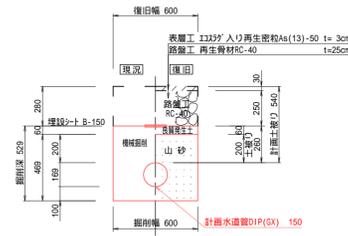
① DIP(GX) 150 県道車道部 DP1.12  
L- 掘削幅0.60 L=4.00m  
(第2工区: 4.00)



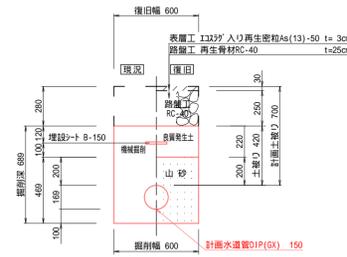
② DIP(GX) 150 県道車道部 DP2.05  
L- 掘削幅1.00 L=4.37m  
(第2工区: 4.37)



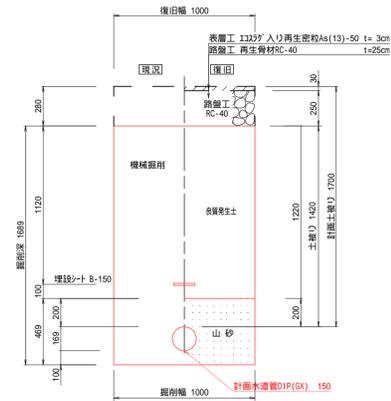
③ DIP(GX) 150 計画歩道部 平均DP0.26  
L- 掘削幅0.60 L=43.41m  
(第1工区: 38.03)  
(第2工区: 5.38)



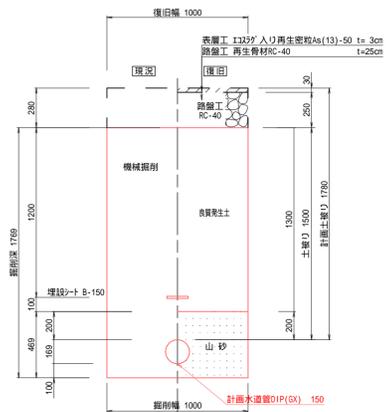
④ DIP(GX) 150 計画歩道部 DP0.42  
L- 掘削幅0.60 L=78.99m  
(第1工区: 25.56)  
(第2工区: 12.51+5.56+35.36)



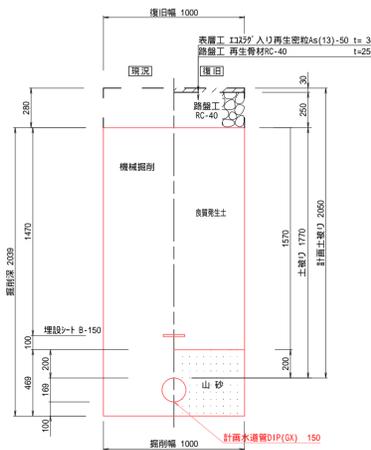
⑤ DIP(GX) 150 計画歩道部 DP1.42  
L- 掘削幅1.00 L=4.48m  
(第2工区: 4.48)



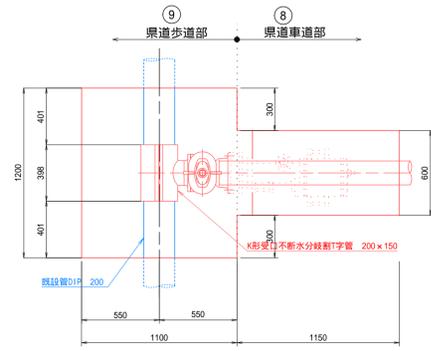
⑥ DIP(GX) 150 計画歩道部 DP1.50  
L- 掘削幅1.00 L=5.61m  
(第2工区: 5.61)



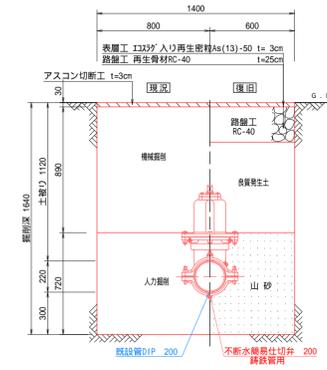
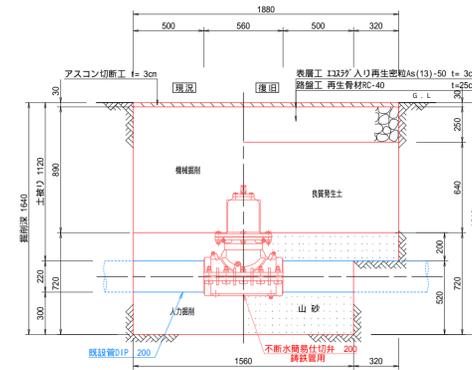
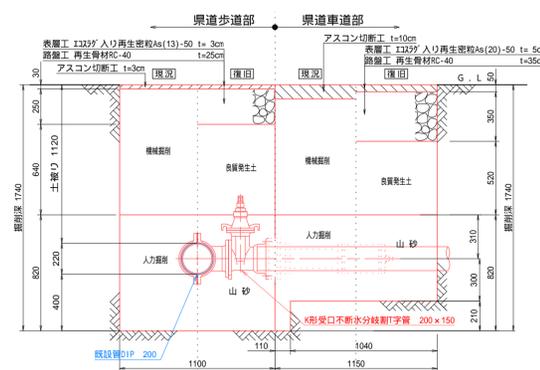
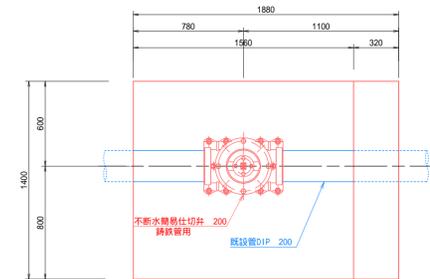
⑦ DIP(GX) 150 計画歩道部 DP1.77  
L- 掘削幅1.00 L=1.06m  
(第2工区: 1.06)



⑧・⑨ 不断水分歧到字管 200×150  
1箇所 DP1.12  
⑧ L=1.10m ⑨ L=0.60m  
(第2工区: 1.10) (第2工区: 0.60)



⑩ 不断水簡易仕切弁 200(県道歩道部)  
1箇所 DP1.12  
(1.40×1.88)  
(第2工区: 1箇所)



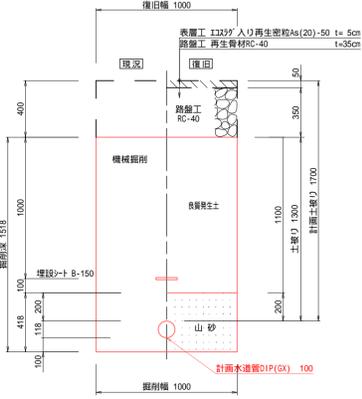
R7実施

発注者	矢板市役所		
事業名	配水管布設工事 第8号 矢板市片岡 地内		
図面	標準土工定規図-1		
縮尺	図示	設計年月日	図番 3 / 5
検印	照査	設計	製図
設 計 図			

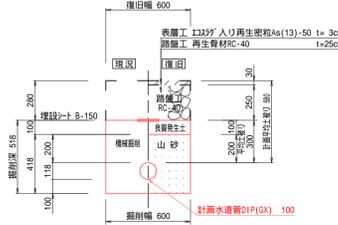
# 標準土工定規図-2 S=1:25

## DIP(GX) 100

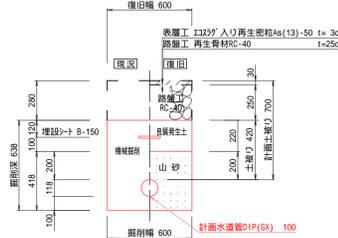
① DIP(GX) 100 計画車道部 DP1.30  
L- 掘削幅1.00 L=8.06m  
(第1工区: 8.06)



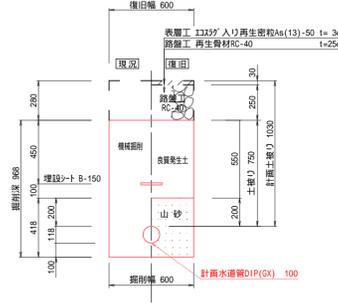
② DIP(GX) 100 計画歩道部 平均DP0.30  
L- 掘削幅0.60 L=43.11m  
(第1工区: 38.76)  
(第2工区: 4.35)



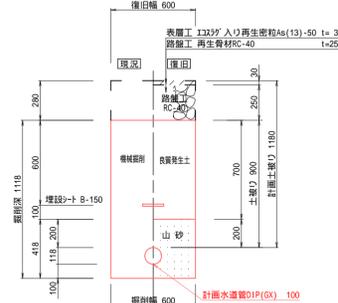
③ DIP(GX) 100 計画歩道部 DP0.42  
L- 掘削幅0.60 L=115.55m  
(第1工区: 23.45)  
(第2工区: 51.96+37.36+2.78)



④ DIP(GX) 100 計画歩道部 DP0.75  
L- 掘削幅0.60 L=3.49m  
(第1工区: 3.49)



⑤ DIP(GX) 100 計画歩道部 DP0.90  
L- 掘削幅0.60 L=14.12m  
(第2工区: 14.12)

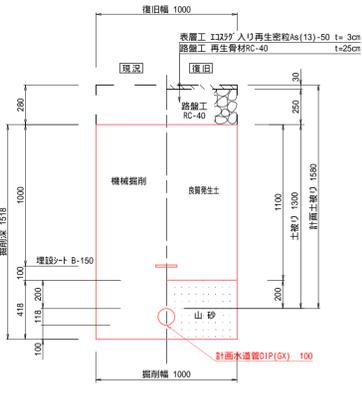


⑥ DIP(GX) 100 計画歩道部 DP0.97  
L- 掘削幅0.60 L=5.12m  
(第2工区: 5.12)

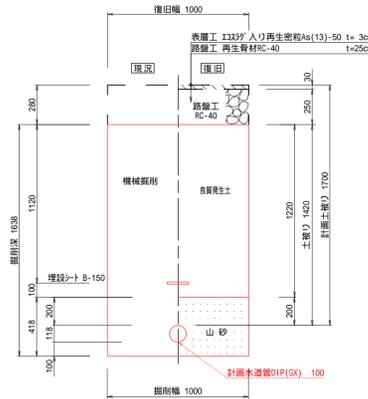


## DIP(GX) 75

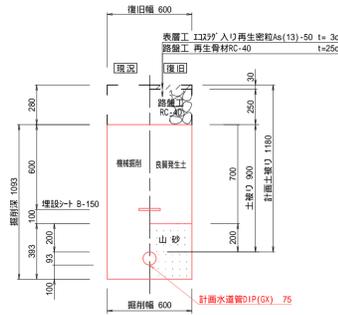
⑦ DIP(GX) 100 計画歩道部 DP1.30  
L- 掘削幅0.60 L=0.88m  
(第2工区: 0.88)



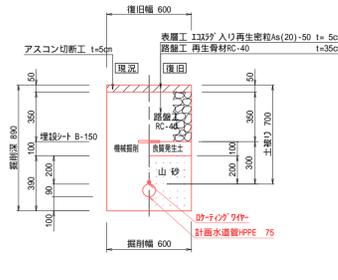
⑧ DIP(GX) 100 計画歩道部 DP1.42  
L- 掘削幅1.00 L=3.84m  
(第2工区: 3.30+0.54)



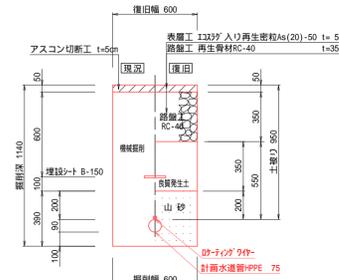
① DIP(GX) 75 計画歩道部 DP0.90  
L- 掘削幅0.60 L=1.09m  
(第2工区: 1.09)



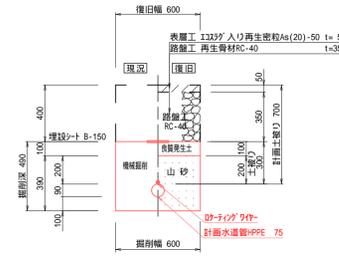
① HPPE 75 市道車道部 DP0.70  
L- 掘削幅0.60 L=12.27m  
(第1工区: 11.82+0.45)



② HPPE 75 市道車道部 DP0.95  
L- 掘削幅0.60 L=7.85m  
(第1工区: 7.85)



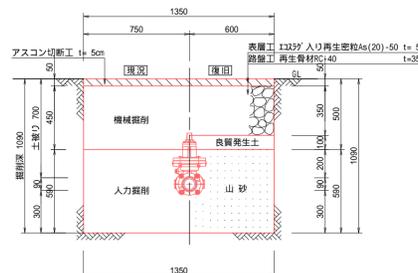
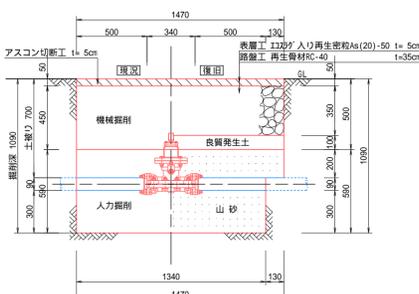
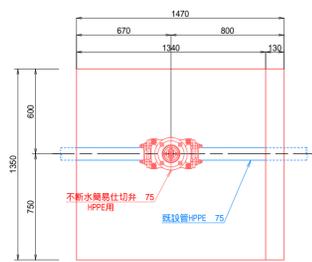
③ HPPE 75 計画車道部 DP0.30  
L- 掘削幅0.60 L=84.24m  
(第1工区: 48.91+35.33)



④ HPPE 75 計画車道部 DP0.55  
L- 掘削幅0.60 L=11.64m  
(第1工区: 2.07+9.57)

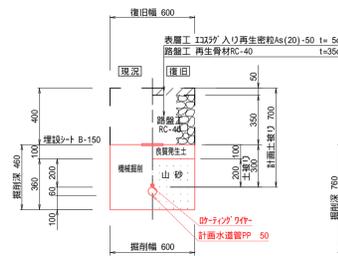


④ 不排水簡易仕切弁 75(市道車道部)  
1箇所 DP0.70  
(1.35×1.47)  
(第1工区: 1箇所)

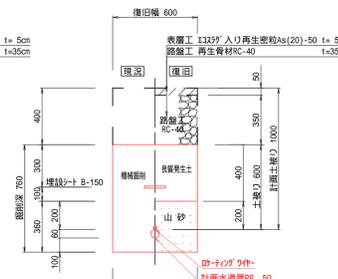


## PP 50

① PP 50 計画車道部 DP0.30  
L- 掘削幅0.60 L=19.20m  
(第1工区: 3.36+15.84)



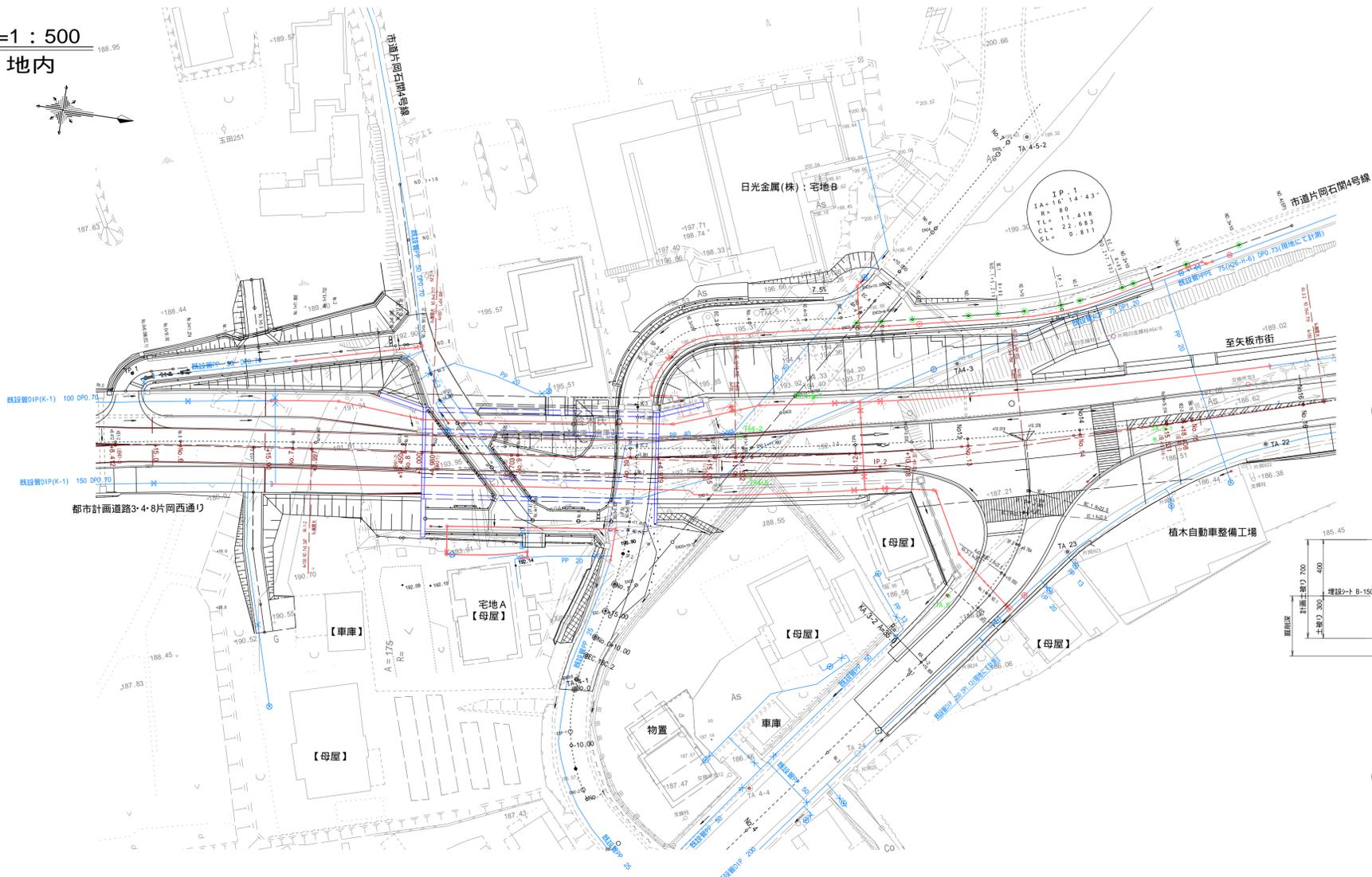
② PP 50 計画車道部 DP0.60  
L- 掘削幅0.60 L=3.63m  
(第1工区: 3.63)



R7実施

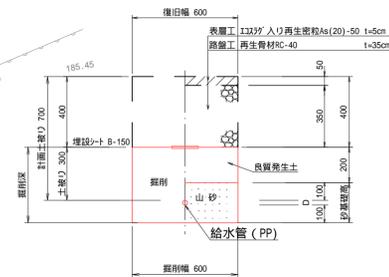
発注者	矢板市役所			
事業名	配水管布設工事 第8号			
図面	矢板市片岡 地内			
縮尺	図示	設計年月日	図番	4 / 5
検印	照査	設計	製図	
設 計 図				

給水平面図 S=1:500  
矢板市 片岡 地内

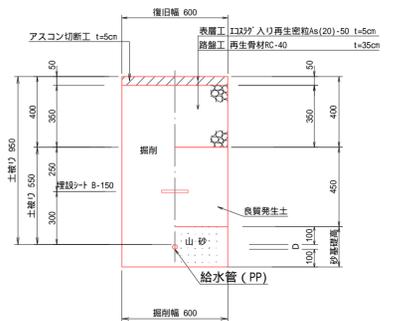


給水土工定規図 S=1:20

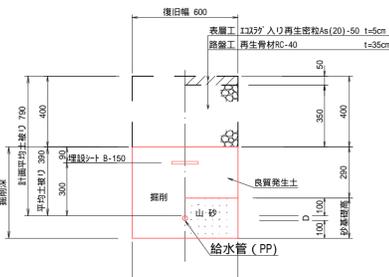
① 市道車道(計画)  
土被り 0.30m  
現況 復旧



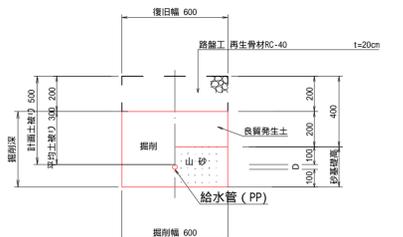
② 市道車道  
土被り 0.55m  
現況 復旧



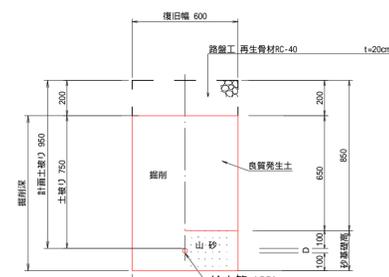
③ 市道乗入(計画)  
平均土被り 0.39m  
現況 復旧



④ 宅内 G(計画)  
土被り 0.30m  
現況 復旧



⑤ 宅内 G(計画)  
土被り 0.75m  
現況 復旧



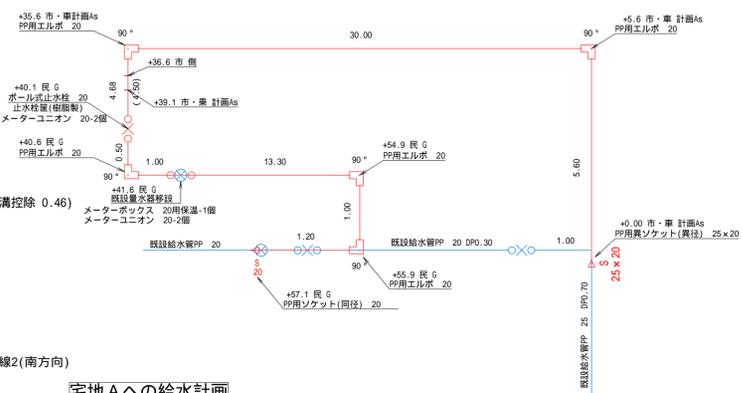
⑥ 宅内 G  
平均土被り 0.50m  
現況 復旧



給水管詳細図 S=Free

日光金属(株) 宅地B

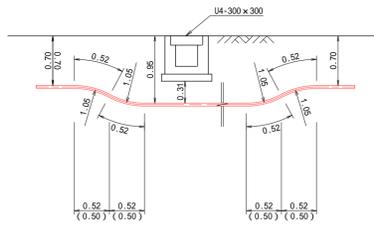
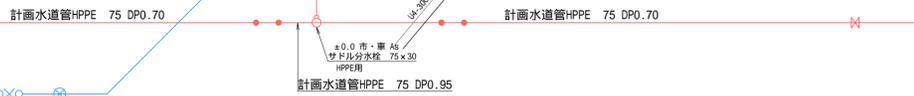
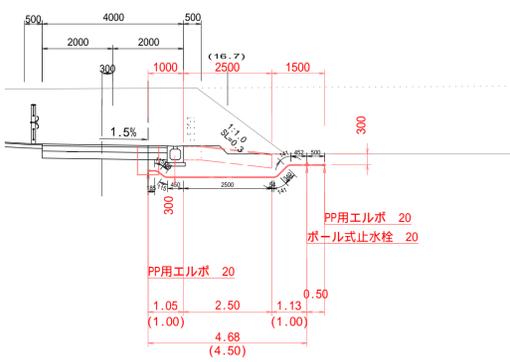
PP 30 L=10.05m(9.40m)  
6.17、 2.00、 0.57(側溝控除 0.66)  
分水サドル 75×30(HPPE用)-1個  
ボール止水栓 30-1個  
止水栓筐(SSD150)-1個  
メーターボックス 30用保温-1個  
メーターユニオン 30-5個  
PP用エルボ 30-2個



宅地A  
PP 20 L=57.28m(57.10m)  
36.14、 2.50、 16.80、 1.20(側溝控除 0.46)  
ボール止水栓 20-1個  
止水栓筐(SSD100)-1個  
メーターボックス 20用保温-1個  
メーターユニオン 20-4個  
PP用エルボ 20-5個  
PP用ソケット(異径) 25×20-1個  
PP用ソケット(同径) 20 -1個

No.4+11.788より枝線2(南方向)  
4号枝線2+17.888  
FH=192.406

宅地Aへの給水計画



R7実施

発注者	矢板市役所		
事業名	配水管布設工事 第 8 号 矢板市 片岡 地内		
図面	給水平面図・給水管詳細図・給水土工定規図	設計年月日	図番 5 / 5
縮尺	図示	設計	製図
検印	照査	設計	製図
言 言 言 言 言			